2023.5.30発行
vol.133

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

成田キャンパス学位記授与式（国際医療福祉大学成田病院 成田国際ホールにて）

特集 医学部1期生卒業記念祝賀会／第2回IUHW国際医学教育シンポジウム開催

令和4年度 学部・大学院 学位記授与式
令和5年度 学部・大学院 入学式
新大学院長 就任のごあいさつ/新任のごあいさつ

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学

医学部1期生卒業記念祝賀会

医師国試合格率全国2位 受験した留学生15人全員合格

国際医療福祉大学は3月25日、医学部1期生卒業記念祝賀会を国際医療福祉大学成田病院国際ホールで開いた。3月16日に結果が発表された医師国家試験で、1期生は留学生15人を含む124人が合格。合格率99.2%は全国2位の好成績となり、笑顔あふれる祝賀会となった。

●高木邦格理事長、鈴木康裕学長、医学部の教員らと1期生の記念撮影

高木理事長
「日本、アジアの医療界のリーダーに」

本学の高木邦格理事長は開会の挨拶で、日本語を母語としない留学生の受験者15人が医師国家試験に全員合格したことに触れ、1つの大学からこれだけ多くの留学生の合格は異例であることから「素晴らしい結果」と称えた。USMLE（米国医師国家試験）の合格者もSTEP1、STEP2CKの合計で延べ18人に上っていることなども紹介した。

本学の医学部は2017年4月、首都圏に43年ぶりの医学部として開設された。国際的な医科部を目指して、世界水準のカリキュラムによる革新的な医学教育を実践し、アジアを中心にトップクラスの学生をフルスカラシップで受け入れている。

医師国家試験やUSMLEの合格実績は、6年間の取り組みの成果を物語るものと言える。

本学は1995年、栃木県大田原市に医師以外の医療福祉専門職の地位向上と、アジアの医療福祉分野のリーダーを養成することを目的に開学。「『共に生きる社会』の実現を目指して」を建学の精神に掲げ、学科横断で「チーム医療・チームケア」を体験する関連職種連携教育、海外の医療現場に触れる海外保健福祉事情などを学びの礎としてきた。

そのチームの「船長」となる医師の養成に向けて、医学部開設の準備が始まったのは今から12年前。当時の政府は医学部新設を認めない方針だったため、「行政訴訟を起こさざるを得ないとまで考えた」と振り返る高木理事長だが、2013年に国家戦略特区の募集事業に千葉県成田市と共同でチャレンジしたことで現在の医学部への道が開けた。

国内外で活躍できる医師を育成する医学部として認可され、2020年には医学部の本院である国際医療福祉大学成田病院も開設した。同病院は新型コロナウイルス感染症に対応するべく当初予定を早めて開院したことでも注目を集めた。

高木理事長は「日本には現在もなお、医学部だけではなく病院や薬学部など様々な分野に参入規制がある。既存勢力だけでは革新や発展は起きず、停滞してしまう。新規参入者がいて、公平なルールの中で適正な競争があってこそ、進歩のある社会、経済が生まれるはずだ」と訴えた。

最後に「本学医学部が成功事例となって、医療・医学の進歩の一助となるよう、これからも研鑽を積んでいく」と決意を披露。医学部卒業生には「日本はもとよりアジアの医療界のリーダーとなることを期待している。留学生には母国と日本の懸け橋になってほしい」とエールを送った。

日本、アジア各国の政府要人らも祝意

祝賀会には国内外の要人が多数集まった。来賓として次の4人が挨拶した。

加藤 勝信 厚生労働大臣

最初に何かを作り上げるまでの道のりにはさまざまな困難がある。それらを乗り越え、1期生を素晴らしい成績で送り出した。皆さんが活躍できるように支援したい。

西村 康稔 経済産業大臣

高木理事長の長年の構想を実現し、素晴らしい結果を出した。前例がなくても、実績がなくても、新しい挑戦を応援する社会を作っていきたい。

松本 吉郎 日本医師会会長

卒業生は英語による医学教育などの画期的な学修を実践した。これからの臨床研修で地域医療の役割分担と連携についても身につけてほしい。

チャン ジエップ トゥアン ホーチミン市医科薬科大学総長

フルスカラシップの留学生は、言葉や文化の壁を越えて医師国家試験に合格した。アジア各国との医学交流は、高木理事長のビジョンがなければ実現できなかった。

このほか、ラオス保健大臣のブンフェン　プーンマライシット氏、ブータン教育大臣のライ　ジャイ　ビル氏、モンゴル保健副大臣のセレージャブ エンフボルド氏、ベトナムの元保健大臣グエン　ティ キム ティエン氏ら各国の政府要人も出席。ミャンマー、カンボジアなどの駐日大使らも駆けつけ、国際色豊かな顔ぶれとなった。

祝賀会ではアジア各国の提携校から推薦されたフルスカラシップの留学を代表して、ベトナム出身のダン タン フイさんが「奨学金のおかげで6年間、すばらしい先生方、友人と出会うことができ、本学医学部の1ページ目を作り上げることができた」と感謝の言葉を述べた。

●医師国家試験に合格した奨学生の留学生

●医学部1期生よりサプライズで高木理事長へ感謝の言葉とお花が贈られた

鈴木学長
「革新的な実験。4月から第2ステージへ」

日本を代表するオペラ歌手の福井敬さん、森麻季さんによる記念コンサートも行われ、華やいだ雰囲気の中で祝賀会は終幕を迎えた。閉会の謝辞で鈴木康裕学長は「私たちは7年前、かなり革新的な実験を始めた」として、①医学を英語で2年間教える②日本で最も長く実践的な臨床実習をする③縦割りではない統合型カリキュラムでアクティブラーニングをする――を挙げた。「医師国家試験の合格率を見ると、入学してストレート（6年間）に卒業する率が高い、かつ、国家試験の合格率が高いという医科大学に国際医療福祉大学が加わった」と実績を強調し、「医学部は第2ステージへと進む。なお一層の支援をお願いしたい」と呼びかけた。

●閉会謝辞を述べる鈴木学長

●記念祝賀会の様子

第2回 IUHW国際医学教育シンポジウム開催

アジア諸国の医学教育の取り組みと課題を議論する「第2回IUHW国際医学教育シンポジウム」（主催・国際医療福祉大学、後援・文部科学省、厚生労働省、外務省、読売新聞社）が3月26日、東京赤坂キャンパスの講堂で開かれた。2018年4月以来の開催となる今回は、医学教育の課題とともに、2017年4月の医学部開設時に入学した1期生の卒業年度にあたることから、本学医学部の6年間の取り組みが報告された。

プログラム

ご挨拶

鈴木康裕・国際医療福祉大学学長

基調講演

「これからの医療者教育―日本での取り組みと世界の動向―」
伴信太郎・愛知医科大学医学教育センター特命教育教授

8大学によるプレゼンテーション

「アジア8大学の医学教育の取り組みと課題」
赤津晴子・国際医療福祉大学医学教育統括センター長（現・副学長）
メンドジャルガル アディルサイハン日本モンゴル教育病院長
モム ソウァタ カンボジア国立保健科学大学副学長
インテーパヴォン ワニラー ラオス国立健康科学大学教務担当副部長
グエン ヒュー トゥー ハノイ医科大学学長
グエン ヴー クオック フイ フエ医科薬科大学学長
ヴオン ティ ゴック ラン ホーチミン市医科薬科大学医学部長
コマン ジャヌアルタ プトラ ピナティ ウダヤナ大学医学部長

国際医療福祉大学医学部１期生留学生によるプレゼンテーション

パネルディスカッション

「医療者教育の将来展望」
【座長】矢野晴美・国際医療福祉大学医学教育統括センター副センター長（現・センター長）
【パネリスト】
伴信太郎・愛知医科大学医学教育センター特命教育教授
赤津晴子・国際医療福祉大学医学教育統括センター長（現・副学長）
メンドジャルガル アディルサイハン 日本モンゴル教育病院長
モム ソウァタ カンボジア国立保健科学大学副学長
インテーパヴォン ワニラー ラオス国立健康科学大学教務担当副部長
グエン ヒュー トゥー ハノイ医科大学学長
グエン ヴー クオック フイ フエ医科薬科大学学長
ヴオン ティ ゴック ラン ホーチミン市医科薬科大学医学部長
コマン ジャヌアルタ プトラ ピナティ ウダヤナ大学医学部長

総　括

鈴木康裕・国際医療福祉大学学長

基調講演

伴愛知医科大教授「日本の医学教育は転換点」「患者中心の臨床実践を」

●基調講演を行う伴信太郎・愛知医科大学医学教育センター特命教育教授

基調講演には、医学教育学の第一人者である伴信太郎・愛知医科大学医学教育センター特命教育教授を招いた。伴特命教育教授は「これからの医療者教育 - 日本での取り組みと世界の動向 - 」をテーマにした基調講演を行い、今後の医学教育の方向性について「包括的で患者中心の臨床実践に基づく教育を指向すべきだ」と指摘、本学が実践する医学教育が「その嚆矢（こうし）となることを期待している」と結んだ。

8大学によるプレゼンテーション

医学部6年間の成果を報告

●赤津晴子医学教育統括センター長（現・副学長）

医学部を持つ日本、ベトナム、モンゴル、カンボジア、ラオス、インドネシアの計8大学の学長らによるプレゼンテーションでは、最初に本学の赤津晴子医学教育統括センター長（現・副学長）が、医学部6年間の取り組みを紹介した。

この中で、①学部生の7人に1人が留学生という「国際的環境づくり」②4週間以上の海外臨床実習を全学生の必修としたこと③臨床実習後OSCEで8割の学生が英語による医療面接スキルで英米名門大学の医学部生と同等かそれ以上との評価を受けたこと④受験した留学生が日本の医師国家試験に全員合格したこと――の4つを具体的成果として挙げ、「新しい医学教育を受けた学生が今後世界でどのように活躍してくれるか楽しみにしている」と結んだ。

各大学の学長ら、医学教育の現況を説明

●メンドジャルガル アディルサイハン 日本モンゴル教育病院長

●モム ソウァタ カンボジア国立保健科学大学副学長

●インテー パヴォン ワニラー ラオス国立健康科学大学教務担当副部長

●グエン ヒュートゥー ハノイ医科大学学長

●グエン ヴー クオック フイ フエ医科薬科大学学長

●ヴオン ティ ゴック ラン ホーチミン市医科薬科大学医学部長

●コマン ジャヌアルタ プトラ ピナティ ウダヤナ大学医学部長

本学の赤津副学長に続き、アジア5か国の7大学から、メンドジャルガル アディルサイハン・日本モンゴル教育病院長（モンゴル）、モム ソウァタ・カンボジア国立保健科学大学副学長（カンボジア）、インテー パヴォン ワニラー・ラオス国立健康科学大学教務担当副部長（ラオス）、グエン ヒュー トゥー・ハノイ医科大学学長（ベトナム）、グエン ヴー クオック フイ・フエ医科薬科大学学長（同）、ヴオン ティ ゴック ラン・ホーチミン市医科薬科大学医学部長（同）、コマン ジャヌアルタ プトラ ピナティ・ウダヤナ大学医学部長（インドネシア）の7人が登壇して、それぞれの国、大学の医学教育の現況を説明した。

国際医療福祉大学医学部１期生留学生によるプレゼンテーション

留学生、体験を語る

3月の医師国家試験に合格した国際医療福祉大学の留学生15人を代表してベトナム、カンボジア、モンゴル、インドネシアの4人の留学生が登壇、本学成田キャンパスのシミュレーションセンター、アクティブラーニング、90週に及ぶ臨床実習、留学生への日本語教育プログラムなどについて、本学の特長を自身の体験を通じ率直に語った。

●会場で熱心に耳を傾ける本学留学生ら

ベトナム
ダン タン フイさん
グループ学修が多く、メンバーで討議する中で異なる考え方を知り、知識が深まった。先生方はみなオープンで親身に質問に回答してくれた。

モンゴル
タルガト ティレウベクさん
日本語レベルはゼロで来日したが、『誰も置いていかない』という先生方の熱意に助けられ日本の医師国家試験に合格することができた。

カンボジア
コン ボレイさん
基礎・臨床医学に加え、医療プロフェッショナリズム、公衆衛生、患者の権利や安全、医療面接や症例提示を学び将来の目標が広がった。

インドネシア
ユリアニ プトゥリさん
シミュレーションセンターの存在は大きかった。1年目から様々な臓器のシミュレーターモデルや多様な機器を使ってスキルを得ることができた。

パネルディスカッション「医療者教育の将来展望」

鈴木学長「知識、能力の溝を埋めるのは生涯教育」

●議論が白熱したパネルディスカッション

本学医学教育統括センターの矢野晴美副センター長（現・センター長）を座長に迎えたパネルディスカッションには、伴愛知医科大学特命教育教授のほか、プレゼンテーションした8大学の学長らが参加。パネリストとの間で「医師免許取得から専門医になるまで」「医師と患者のコミュニケーションのあり方」などをめぐり白熱した議論が交わされた。

シンポジウムの最後に本学の鈴木康裕学長があいさつに立ち、チーム医療を提供していくためにプログラム型で学生を中心に据えた教育の必要性を強調し、「求められる知識、能力との溝を埋めるのは生涯教育だ」と総括した。

●パネルディスカッションで座長を務める矢野晴美医学教育統括センター副センター長（現・センター長）

●総括する本学の鈴木康裕学長

●アジアをはじめとする各国からの参加者

●昼食やコーヒーブレークをはさみ8時間にわたって開催された

国際医療福祉大学入学式

理事長式辞

学校法人 国際医療福祉大学
高木 邦格 理事長

アジアの医療福祉のリーダーをめざして

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。本日、国際医療福祉大学成田キャンパスには、学部・大学院生あわせて629人をお迎えすることができました。本学の、成田、大田原、東京赤坂、小田原、大川の５キャンパスを合計しますと、2,497人の皆様にご入学いただいたことになります。数ある大学からこの国際医療福祉大学をお選びいただきありがとうございます。心から歓迎申し上げます。今年度は3年ぶりに保護者の皆様をお迎えして入学式を執り行うことができ、大変嬉しく思っております。コロナ禍のなかで受験勉強を頑張ってこられた新入生の皆様、その努力を今日まで支えてこられた保護者の皆様、改めておめでとうございます。

また本日はお忙しいなか、成田市長の小泉一成様、つくば市長の五十嵐立青様、千葉県印旛郡栄町長の橋本浩様、酒々井町長の小坂泰久様、印旛市郡医師会会長の菅谷義範様をはじめ、地元の市町村や市議会の皆様に多数ご来臨賜り、誠にありがとうございます。

本学は、1995年に日本初の医療福祉の総合大学として、医師以外の医療福祉専門職の地位の向上とアジアの医療福祉分野のリーダーを育てることを大きな目標とし、栃木県大田原で開学しました。現在では全国5キャンパス10学部26学科を擁する大学になりました。各キャンパスでは、学部、大学院合わせて約10,000人の学生が学んでいます。開学より28年を経て、卒業生は学部・大学院生合わせて約32,000人にのぼります。

開学当時は、医療福祉専門職の教育が専門学校に偏っていたこともあり、厚生省が保健医療大学構想などを打ち出すなど、医療福祉専門職の教育の構造改革の機運が高まるなか、多くの職能団体のトップが集まって作ったのが、この国際医療福祉大学です。初代学科長には、フルブライト奨学生として1950年代後半にアメリカで教育を受け、当時、医療福祉分野のリーダー的存在として活躍していた先生方を迎えました。アメリカがかつて日本の医療福祉専門職の教育を行ったように、私はアジアの医療福祉分野のリーダーを養成しようと各国から留学生を受け入れました。留学生は本学を卒業後は母国に戻り、現在は職能団体のトップやリーダーとして活躍しています。開学からこれまで、多くの学科で国家試験の合格率100%を維持しており、卒業生は各分野で活躍しています。

こうした実績から、「戦後最も成功した新設大学」との評価をいただくなか、次はチーム医療の船長となる医師を養成する医学部を作りたいという思いから、2017年には医学部の新設に至りました。開設までにさまざまな困難がありましたが、アジアの医療のリーダーを養成することをめざし、1学年140人の学生のうち20人の留学生を受け入れ、1～2年生のほとんどの授業を英語で行うほか、世界水準の80週を超える臨床実習を実施するなど、革新的な医学教育を実践いたしました。今年3月には、医学部一期生が卒業を迎え、医師国家試験の合格率は全国2位（既卒・新卒含む）の99.2%、留学生の受験者15名は全員合格という素晴らしい成績を収めました。留学生は入学前には日本語がわからない状態の学生がほとんどだったにもかかわらず、受験した全員が日本の医師国家試験に合格することができたのです。今年度入学した留学生の皆様も、自信を持って本学で学び、母国の医療水準をあげるために尽力できる医療人に育ってほしいと思います。

でき上がりつつある本学の骨格

成田市からの支援をいただき、国家戦略特区事業の第１期工事として成田キャンパスを設置してまいりましたが、今後の第２期工事においては、さらにアジアを代表する国際的な施設として整備していくことを考えています。

高齢化が進む日本社会においてリハビリテーションや老年医学の分野は、ますます重要となってきます。そこで、不足する介護人材を育成する介護福祉特別専攻科を2023年4月、開設しました。あわせて、老人保健施設と特別養護老人ホームとしての機能を備え、成田キャンパスの老年医学センターとして研究機能も両立する施設を整備する予定です。

2024年には、国際的に活躍できる公衆衛生分野の専門職を育成する日本最大級の公衆衛生専門職大学院の設置についても準備を進めています。また、アジアの医療レベルを上げるために薬は重要な課題の1つですが、臨床現場で幅広く活躍できる薬剤師の養成をめざし、成田薬学部の設置に向けて準備を進めています。

2024年に薬学部と公衆衛生専門職大学院が開設できれば、当初めざしてきたこの大学の骨格ができ上がるのではないかと考えております。

創立30年を見据えて

本学は2年後にはいよいよ開学30周年を迎えます。30周年記念式典をここにいる皆さまとお祝いできることを今から心待ちにしております。

本学では、医療福祉分野でトップレベルの優秀な教員のもと、世界最大のシミュレーションセンター設備をはじめ、6つの附属病院と60を超える関連医療福祉施設という極めて充実した実習環境で、多くの症例を経験していただくことができます。新入生の皆さまには、学修、研究にしっかりと取り組んでいただきたいと思います。同時に、弱者に寄り添う気持ちを忘れず、課外活動、ボランティア活動、地域活動にも積極的に携わりながら、豊かな人間性を育んでいってください。皆さまが、本学の恵まれた学修環境のもと、充実した大学生活・大学院生活を送られることをお祈りして、私の挨拶とさせていただきます。

（4月9日 成田キャンパス入学式より）

学長式辞

国際医療福祉大学
鈴木 康裕 学長

プロフェッショナルな医療人を育てる充実した学修環境

新入生の皆様、ご入学、誠におめでとうございます。

Hearty welcome you all to our campus!

本日は年度はじめのご多用のところ、成田市長の小泉一成様をはじめ多くのご来賓の方にご臨席を賜りまして心より御礼申し上げます。また、常日頃から、本キャンパスの学生に対して様々なご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今年度は、医学部142人、成田看護学部102人、成田保健医療学部307人の学部生、臨床工学特別専攻科9人、本年度新たに開設された介護福祉特別専攻科22人、成田キャンパスの大学院生47人、合計629人の方がめでたく入学されました。

本日、新入生に加え、ご家族の方々にもこうして参列していただけたことは、この上のない喜びです。新型コロナ感染症は5月からは通常の感染症の扱いとなるようですが、安全面に配慮した上で、こうしたセレモニーやクラブ活動などを3年前の平常時に戻していく必要性を強く感じています。

国際医療福祉大学は、開学以来の実績と成果を礎に、2016年4月に成田市に成田看護学部と成田保健医療学部を擁する成田キャンパスを開設しました。翌2017年には医学部医学科、2020年に放射線・情報科学科、2021年に臨床工学特別専攻科を開設し、成田キャンパスは年々学生数を増やしております。今年度は総合大学として学ぶ場をさらに充実させ、介護福祉特別専攻科を開設いたしました。高齢化社会に対応し、介護人材が不足する状況のなかで、2年間の学修で介護福祉の国家資格を取得し、社会への貢献をめざしていただきます。本学での学びは総合大学としてその強みを発揮できると信じております。また、本日の会場である国際医療福祉大学成田病院は、おかげさまで開院3年目を迎えました。成田病院は学生にとって臨床実習の中心施設となっており、トップクラスの専門医からの指導を受けられる充実した環境が整っています。今年も成田キャンパス卒業生68名がここ成田病院に配属されました。大学で修得したスキルを磨き、プロフェッショナルな医療人をめざしてそれぞれに第一歩を踏み出しています。

新入生に贈る3つの言葉

これから新生活を始める新入生の皆様に、今日は3つの言葉を贈りたいと思います。

まずは、transition（移行）です。皆様は親元で庇護される存在から、自分で責任を取る大人への過渡期、準備期間に入りました。自ら責任を引き受けることは簡単ではなく怖いことです。責任を取らなくていい方法は「何もしない」ことですが、何もしなければ成長も成し遂げる喜びもありません。福沢諭吉はこう言っています。「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」。割り当てられた枠に閉じこもるのではなく、ぜひ外に歩みだしてこの大人への過程を楽しんでください。

次に、diversity（多様性）です。初代学長の大谷藤郎先生が提唱された本学の建学の精神は、「病める人も障害を持つ人も健常な人も、互いを認め合って暮らせる『共に生きる 共生社会』の実現」であり、本学では医療福祉に関連する全医療従事者による「チーム医療教育」に積極的に取り組んでいます。進化論を唱えたダーウィンは「強いものが生き残るのではない、環境に適応するものが生き残るのだ」と言っていますが、恐竜の絶滅を見てもわかるように、多様でない社会は変化に脆弱です。また、医療には人工知能やロボティックスが導入され始めていますが、多様な患者様の必ずしも表に現れてこない痛みや不安を聴き出し、寄り添えるのは、多様性を理解できるヒトである医療従事者だけです。

最後に、challenge（挑戦）です。皆様が今まで闘ってこられた「受験戦争」は、わかっている答えにいかに早く正確にたどり着くかを競うものですが、これからは正解のわからない問いにどのように取り組むのかというのが職業人生における最大の課題です。ヒトは失敗からしか学べません。失敗を恐れず、成功に溺れない。これができるかどうかで、「皆様のこれから」が決まると言っても過言ではありません。

刺激に富んだ学問や環境との新たな出会い

この3年は新型コロナウイルス感染拡大の中で高校生活を送り、受験勉強に集中するのが大変だったと思います。こうした試練を乗り越え無事に入学を果たされたわけですから、皆様はすでにスタートラインで大きなダッシュをする準備ができているのだと思います。皆様はこれから、この国際医療福祉大学のキャンパスで、同級生や先生方、刺激に富んだ学問や環境と新たに出会い、生涯をかけるに値する職業人としての第一歩を踏み出すことになります。しかし、もしかしたら初めて親元を離れ、学校や近所の友人と別れ、頻繁に会うことが難しくなるかもしれません。でも、恐れることはありません。私たち教職員は、そんな皆様を全力で支えるためにここにいるのです。皆様とともに成長することができれば、私たちにとってこれに過ぎる喜びはありません。

本日、夢と希望と勇気をもって、人生の新しいページに踏み出された皆様の、今後のご活躍とご健闘を心から祈念して、私の式辞とさせていただきます。

本日は本当におめでとう！

Congratulations, you all!

（4月9日 成田キャンパス入学式より）

大田原キャンパス

大田原キャンパスの入学式は4月5日、那須アスリーナで行われた。学部874人、大学院39人の新入生が入学した。保護者が4年ぶりに参列するなど、コロナ禍前にほぼ戻った内容となった。

式辞で鈴木康裕学長は「失敗を恐れず、成功に溺れない。これができるかどうかで『皆さんのこれから』が決まるといっても過言ではない」と激励。矢冨裕大学院長は「研究テーマにとどまらず、もっと多くのものを吸収し、本学がめざす『共に生きる社会』の実現に貢献できる医療人になってほしい」と呼びかけた。

学部新入生を代表して作業療法学科の荒井沙菜さんは「専門的な知識や技能を身に付け、夢に向かって精進する」と誓った。大学院新入生代表の博士課程・視機能療法分野の今中楓菜さんは「本学の特徴を生かして領域を超えた学際的視点から研究に取り組みたい」と力を込めた。

●荒井沙菜さん誓いのことば

（総務課　村山ゆみ）

小田原キャンパス

小田原キャンパスでは、小田原保健医療学部・大学院の入学式を4月6日、城内校舎で行った。

学部新入生217人（看護学科82人、理学療法学科89人、作業療法学科46人）と小田原・熱海キャンパスに所属する大学院新入生12人が入学した。

鈴木康裕学長、矢冨 裕大学院長が式辞を述べた後、来賓を代表して守屋輝彦小田原市長、国立病院機構箱根病院今井富裕院長より祝辞をいただいた。

続いて、学部新入生を代表して、海津有里さん（理学療法学科）、大学院新入生を代表して、渡辺英子さん（博士課程）が誓いのことばを述べた。

海津さんは、「これからは私達が私達を必要としてくださる方々の支えとなれるよう、看護師、理学療法士、作業療法士として尽力し、共に生きる社会を創ってまいりたいと思います。」と決意を語った。（総務課　村坂美希）

●誓いのことばを述べる海津有里さん

成田キャンパス

4月9日、国際医療福祉大学成田病院で入学式が行われ、医学部、成田看護学部、成田保健医療学部、臨床工学特別専攻科、介護福祉特別専攻科、大学院の新入生計629人が入学した。

鈴木康裕学長、矢冨裕大学院長、高木邦格理事長が式辞を述べた。鈴木学長は「人生の新しいページに踏み出された皆様のご活躍とご健闘と心からお祈りします」と激励した。

新入生誓いのことばでは、川井和哉さん（医学部）、マーベラさん（医学部奨学生・インドネシア）が「この素晴らしい環境に甘えることなく日々精進し続けます」「多くの人を助けられるグローバルな医師になりたい」と述べ、加納裕遵さん（大学院 医療福祉学研究科 博士課程）は「共に生きる社会の実現に貢献できるよう鋭意努力してまいります」と決意を語った。

（広報　城貴弘）

●川井和哉さんの誓いのことば

大川キャンパス

大川キャンパスでは、4月4日に福岡保健医療学部看護学科開設式および入学式が行われ、福岡保健医療学部に229人、福岡薬学部に123人、九州地区大学院に38人が入学した。式では、高木邦格理事長、鈴木康裕学長、矢冨裕大学院長の式辞の後、倉重良一大川市長をはじめとした来賓による祝辞が続き、福岡県看護協会の大和日美子会長から「不足する看護職の育成をさらに強化されますこと、看護職能団体の代表として厚く御礼申し上げます」とのお言葉をいただいた。これを受け、学部新入生を代表して看護学科の村田花菜さんが「人の心に寄り添い、癒し、必要とされる看護師をめざしたい。また新入生一同、大きな成長のために努力を惜しむことなく意義ある大学生活を送る」と誓いのことばを述べた。

（広報　帆足リエ）

●看護学科開設式および入学式の様子

●村田花菜さん誓いのことば

東京赤坂キャンパス

東京赤坂キャンパスで4月7日、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部に121人（心理学科61人、医療マネジメント学科60人）、大学院に276人（博士課程63人、修士課程213人）を迎えて、入学式が行われた。

鈴木康裕学長は式辞で「刺激に富んだ学問や環境と新たに出会い、生涯をかけるに値する職業人としての第一歩を踏み出す皆さんを、私たち教職員は全力で支える」と述べた。矢冨裕大学院長は「他領域の学問や人々との交流を深め、大学院での学際的な研究につなげてほしい」と呼びかけた。高木邦格理事長は「東京赤坂キャンパスは、近くに山王病院や国際医療福祉大学三田病院などグループの臨床実習施設も多く、本学の教育の大きな柱になっている。充実した大学生活を送ってほしい」と挨拶した。本学の臨床医学研究センターの一つである山王病院の藤井知行病院長は来賓として挨拶し、「知らないことは恥ではないが、恥ずべきなのは知ろうとしないこと。積極的に勉強してほしい」と激励の言葉を送った。

学部新入生を代表して医療マネジメント学科の井口紗也香さんは「今までとは違う環境で私たちは幅広い知識を身につけ、それぞれ大きな夢に向かい、日々精進してまいります」と決意を披露した。大学院生代表の杉山拓也さん（医学研究科医学専攻博士課程）は「さまざまな経験と問題意識を持った大学院の仲間とともに、研究活動によってより良い社会を作り、新たな時代につなぐ役割を積極的に担っていきます」と意欲を示した。

（広報　赤津良太）

●井口紗也香さん誓いのことば

新大学院長　就任のごあいさつ

関連職種連携教育、国際連携着実な歩みを実感

国際医療福祉大学大学院長　矢冨（やとみ） 裕（ゆたか）

幅広い視点から医療福祉に取り組む

この度、4月1日付けで、三浦総一郎先生の後任として大学院長に着任いたしました矢冨裕です。我が国で初めての医療福祉の総合大学として1995年に開学し、保健・医療・福祉の分野において指導的な役割を担うことが期待される高度医療専門職の人材を育成するために1999年に大学院が開設された本学で働けることをたいへん光栄に思います。

着任後、早速、本学の各キャンパスを回らせていただきましたが、「『共に生きる社会』の実現を目指して」という建学の精神のもと、本学の特長である関連職種連携教育、国際交流が着実に進められていることを実感いたしました。私の専門は、医学の中の内科学、臨床検査医学です。内科の中では血液学とくに血栓止血関係を専門とし、臨床検査医学の中では検査血液学をそれぞれ専門としています。病院の中では、検査部門の運営を中心に、横断的に病院機能を支える中央診療部門で活動しつつ、内科診療にも従事してきました。

これまでの自身の経験を生かし、幅広い視点から医療福祉に取り組み、本学の発展に貢献できるように全力で職務を全うしたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

プロフィール

1983年 東京大学医学部卒業、医学博士。2005-2023年 東京大学大学院医学系研究科教授。東京大学総長補佐・教育研究評議員、医学系研究科副研究科長・医学部副学部長、医学部附属病院副病院長などを歴任。これまで、第23回日本検査血液学会学術集会大会長、日本内科学会理事長、日本臨床検査医学会理事長、日本医療機器学会理事長などを務める。2023年4月より国際医療福祉大学大学院長。

退任のごあいさつ

前国際医療福祉大学大学院長　三浦 総一郎

6年間にわたり皆様には大変お世話になり深く感謝申し上げます。

人生100年の学び直しの時代を迎え、大学院では働きながら学ぶ環境を提供しつつ、学習者本位の多彩な学びを提案できたと自負しております。在任中に、医学部と連携して医学研究科を新設し、東京赤坂キャンパスへの新規移転に伴い大きく発展できたことは嬉しく思いますが、新型コロナ感染症で苦労したエピソードも思い出されます。

私は、院長として3つの目標を掲げてまいりました。①大学院の規模の拡張、②研究の質の向上とブランド化、③対外交流の強化とくに国際化――の3つであります。充分とは言えませんが、一応の成果は得られたと考えております。

今後も大学院が、「知の国際医療交流拠点」としてしっかりと役割を果たすことを祈念いたします。

※三浦前大学院長は本学教務担当専務理事に就任されました。

国際医療福祉大学
副学長（九州担当）

筒井 裕之

九州大学医学部卒業。医学博士。
北海道大学循環病態内科学教授、北海道大学病院副病院長、九州大学循環器内科学教授を歴任。専門分野は循環器内科学、心不全、心筋症。厚生労働省指定難病検討委員会専門委員・厚生科学審議会専門委員、医薬品医療機器総合機構専門委員。日本心不全学会理事・前理事長、日本心臓リハビリテーション学会理事。第29回日本心臓財団 佐藤賞受賞。第87回日本循環器学会学術集会会長を務める。

このたび、国際医療福祉大学大学院・医学部教授、ならびに副学長（九州担当）を拝命いたしました。今まで北海道大学循環病態内科学、その後九州大学循環器内科学教授として診療・研究・教育に従事してまいりました。国際医療福祉大学大川キャンパスには福岡保健医療学部と福岡薬学部があり、九州のみならず西日本の地域医療を牽引する看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、薬剤師の養成をめざしています。大川キャンパスは、多彩な学部学科構成と関連職種の連携教育とともに、グループ発祥の病院として113年の歴史を持つ高木病院や日本屈指の規模を誇る柳川リハビリテーション病院などの充実した関連病院・施設と一体となった理想的な教育環境を最大の特長としています。さらに、高木病院では医学部生を含め医療福祉を学ぶ多くの学生実習や臨床研修医の臨床研修が行われています。幅広い知識と確かな技術を併せ持った次世代を担う優れた医療専門職の育成に力を尽くしてまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学
副学長（国際交流担当）

赤津 晴子

上智大学理学修士、ハーバード大学理学修士、ブラウン大学医学博士、米国医師免許取得。スタンフォード大学内科、内分泌内科研修を経て、ピッツバーグ大学とスタンフォード大学で診療と医学教育に携わる。前スタンフォード大学医学部准教授、内分泌内科医長。全米のベストドクター賞、トップドクター賞受賞。2022年度まで本学医学部医学教育統括センター長、教授。2023年度より本学副学長。

昨年度までは成田キャンパス医学教育統括センター長として、2017年の医学部開学以来、日本のどの医学部とも違う新しい医学教育の実施、運営、統括を6年間行ってまいりました。多くの教職員、学生が全力を尽くし推し進めてまいりましたこの斬新な医学教育を受けた1期生も2023年3月にはキャンパスを巣立ち、医学教育もお陰様で一巡いたしました。今春からは東京赤坂キャンパスに異動となり、副学長として国際業務全般を仰せつかっております。本学は多数の海外提携校との長年の交流基盤がありますので、それらの交流のさらなる活性化に加え、新しい提携校の開拓、そして世界から認められ、愛され、求められる「IUHW」として成長していけるよう、尽力してまいります。また、本学は「『国際』医療福祉大学」でありますので、全てのキャンパス、学部、学科で学ぶ学生が在学中に「国際」を自身のキーワードの一つに加え、国際の持つ多様性をバネにさらに飛躍し、社会貢献ができるようなサポートしたいと願っております。今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学
副学長（研究・教務・産学連携担当）

小室 一成

東京大学医学部卒、医学博士。ハーバード大学講師、東京大学循環器内科講師、千葉大学循環器内科教授・副病院長・未来開拓センター長、大阪大学循環器内科教授・未来戦略機構特任教授、東京大学循環器内科教授・トランスレーショナルリサーチセンター長を歴任。現日本循環器協会代表理事、日本腫瘍循環器学会理事長、アジア太平洋循環器学会理事長、厚労省循環器病対策推進協議会委員。日本循環器協会代表理事、第83回日本循環器学会学術集会会長、第120回日本内科学会総会・講演会会長を務める。

このたび、国際医療福祉大学副学長（研究・教務・産学連携担当）、循環器バイオバンクリサーチセンター長、大学院・医学部教授を拝命いたしました。私は長年循環器内科医として循環器疾患の臨床、教育、研究に携わってきました。臨床医学は著しく進歩していますが、未だ治すことのできない疾患がたくさんあります。疾患の克服には研究によって病態を明らかにし、新しい治療法を確立することが必要です。当大学では臨床、教育においてすでに素晴らしい成果が生み出されてきており、研究に関しても力を入れていく時がまいりました。今後の研究で重要なのは、進歩著しい新しい研究手法をいち早く導入するとともに、ゲノム・オミックス、検査、臨床・生活上の膨大な情報を収集し、AI等で統合解析することです。医療系大学の使命は臨床、教育と研究です。多くの病院を抱える当大学で行うべき研究は何かをよく考え、2025年に予定される新棟完成まで、情報を集積するシステムを構築し、大学内にできるだけ多くの研究の種をまいていこうと思います。

新任のごあいさつ

国際医療福祉大学
成田病院
病院長

吉野 一郎

九州大学医学部卒、医学博士。前千葉大学大学院医学研究院呼吸器病態外科学教授、千葉大学医学部附属病院副病院長。日本肺癌学会常任理事・第64回学術集会会長、日本呼吸器外科学会理事長・第35回学術集会会長、米国外科学会正会員、米国胸部外科学会正会員、欧州胸部外科学会正会員・学術集会委員、日本学術会議連携会員。

このたび成田病院長に就任いたしました。宮崎前病院長が開院以来3年間に築かれた基礎のもと、さらに充実した医療を皆様にご提供すべく職員一丸となって取り組んでまいります。開院とともに新型コロナウイルス対応にフル稼働した国際臨床感染症センター、がん治療の切り札である高精度治療機器を備えたがん放射線治療センター、難病やがんの診療に欠かせないゲノム医療を推進する遺伝子診断センターをはじめ、消化器病センター、脊椎脊髄センター、脳卒中センター、創傷治癒センター、血液浄化センターなど社会的に重要な疾患に対してもしっかりとお応えし、これら施設を活用して先進的な診療を一層充実させていきます。また、地域に根付いた医療の展開を進め、プール、ジム、サウナなどを備えた「健康増進センター」と人間ドック・健診を行う「予防医学センター」では皆様の健康づくりをサポートいたします。本年は医学部1期生を含む臨床研修医35人を採用しており、教育機関としての期待にも応えてまいります。職員とともに力を合わせて、本院・本学の発展に貢献する所存です。

医学部 学部長

坂元 亨宇

慶應義塾大学医学部卒業。医学博士。慶應義塾大学名誉教授。病理専門医。米国ラ・ホヤ癌研究所留学。国立がんセンター研究所病理部部長、慶應義塾大学医学部病理学教授を歴任。日本肝臓学会理事、日本肝癌研究会代表理事。第108回日本病理学会総会会長、第57回日本肝癌研究会会長、第26回日本肝臓学会大会会長。2015年SGH財団佐川特別賞、2017年日本病理学賞、2022年日本肝臓学会織田賞受賞。

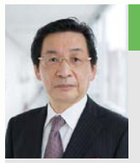
本学医学部は今春、第1期生が無事卒業し、第2ステージを迎えます。卒業生、医療系他学部との連携を強化し、相乗効果を発揮することで、本学が一層発展することに貢献できればと考えます。医学の基本を大事にしながら、幅広く多様な裾野を持つ医療界において活躍できる人材を育てていきたいと思います。21世紀に誕生した新医学部が、アジア、世界をつなぐことのできる医師を育成し、医療を展開することは、まさに時代のニーズでもあります。多くの学生に本学をめざしてもらい、一緒に切磋琢磨して学ぶことを楽しみにしています。

成田保健医療学部 学部長／
理学療法学科長、総合教育センター長

西田 裕介

国際医療福祉大学保健学部理学療法学科卒。修士（障害科学：東北大学）、博士（保健医療学：国際医療福祉大学）。聖隷クリストファー大学理学療法学科長を経て2016年に本学着任。全国リハビリテーション学校協会事務局長、リハビリテーション教育評価機構理事、厚生労働省理学療法士作業療法士国家試験出題基準作成部会委員。第39回日本理学療法学術大会優秀賞をはじめ学術表彰多数。

本学のこれまでの歴史を基盤にキャンパス間の連携を強力に推進し、教養教育を含む教育の質向上、ならびに研究力の向上に努めます。また、本学の内部質保証システムの強化を軸としてアジアの医療系大学のモデルとなるよう全力で取り組みます。そのためにもめざすべき明確な目標を設定し、「できるための工夫とアイデア」を共有できるチームを創りたいと思います。今後はオープンドアポリシーのもと、本学に関わる全ての皆さまと連携し、また、多くのご指導やご助言をいただきながら本学の発展に尽力してまいります。



医療福祉学部 学部長／
医療福祉・マネジメント学科長

山本 康弘

大阪府立大学大学院博士前期課程修了。国立医療・病院管理研究所病院管理専攻科修了。国際医療福祉大学大学院博士課程修了（博士）。診療情報管理士指導者。診療情報管理士教育統括責任者。日本医療経営学会理事。第20回日本医療経営学会学術集会会長。栃木県国民健康保険運営協議会会長。栃木県立高等学校評議員、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）運営指導委員長など。

医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科では、医療・福祉・マネジメントの3つの分野を幅広く学べます。社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家資格取得をめざす福祉系3コースと、診療情報管理士・医療福祉経営の専門家をめざすマネジメント系2コースなど5コースから構成されています。少人数教育で学修をバックアップし、各種資格試験での高い合格率と手厚いサポートによる就職支援を進めてまいります。

福岡保健医療学部 学部長

戸田 修二

佐賀医科大学医学科卒業。博士（医学）。ミュンヘン大学留学。佐賀大学名誉教授、元佐賀大学医学部病因病態科学講座教授、元佐賀大学附属病院病理部長。専門は、病理学、分子細胞生物学、培養システム学。現在、日本病理学会名誉会員、日本臨床細胞学会学術評議員、日本ワンヘルスサイエンス学会理事など。日本病理学会学術研究賞（A演説）、日本甲状腺学会基礎医学研究賞など

大川キャンパスは、地域の拠点病院である老舗の高木病院とその関連医療施設を背景に総合福祉医療の教育・研究・診療を実践しております。当キャンパスのミッションは多職種医療人の教育・研究・診療ならびに地域医療への貢献をさらに推進することです。このキャンパスで若者のエネルギーを借りて、共に成長したいと思っております。もとより微力ではありますが、このミッションを推進すべく助力します。

医学部 医学科長

潮見 隆之

慶應義塾大学医学部、同大学大学院修了、医学博士。同大学医学部助手、米Columbia大学Associate Research Scientist、New York大学Research Scientistを経て本学医学部教授に着任。病理・病理診断学教授（代表）、大学院基礎医学研究分野責任者、基礎医学研究センター長、図書館長。成田病院副院長・病理診断科部長。

医学部は昨年度末に1期生が卒業し、本年度より新たな体制で更なる飛躍をめざします。日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価受審が近く予定されており、医学部としての体制確立と継続的な改善体制の整備を行います。また基幹大学病院である成田病院をはじめ各大学病院・附属医療福祉施設との連携強化、医学研究体制の構築を急ぎ、教育・診療・研究という大学医学部の3つの大きな活動を有機的に結合させ、発展していけるよう尽力します。また他学部他学科との連携も深化させていきたいと考えております。

保健医療学部 看護学科長

家入 香代

浜松医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修了。企業における産業保健や行政機関での医療・福祉政策や健康づくり、脳卒中等の疾病対策、精神保健、虐待防止活動を実践。子ども虐待防止学会評議員等。

前職は栃木県庁で医療や福祉の政策を行うほか、保健所や児童相談所、精神保健福祉センター等の現場に勤務しておりました。今後は、この経験を存分に生かし、医療保健福祉の現場でいきいきと活躍できる看護のプロフェッショナルの育成に努めてまいります。大田原キャンパスの恵まれた環境のもと、皆様のご指導やご支援を賜りながら進んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

保健医療学部 言語聴覚学科長

平島 ユイ子

広島大学学校教育学部卒業。福岡教育大学大学院教育学研究科修士。国際医療福祉大学大学院保健医療学博士。認定言語聴覚士（聴覚障害領域）。

このたび、保健医療学部言語聴覚学科長を拝命いたしました。これまで福岡保健医療学部と福岡国際医療福祉大学での教育に携わってまいりました。言語聴覚士の養成を牽引してきた歴史のある本学科の先輩の先生方の理念を受け継ぎ、さらに時代の要請に応えることができる言語聴覚士の育成に努めてまいります。他キャンパスと連携し学びを得ながら学生指導に励む所存です。

成田保健医療学部 医学検査学科長

清宮 正徳

京浜学園臨床検査技術科、東京理科大学二部化学科卒、東邦大学大学院、千葉大学大学院修了。博士（医学）。臨床検査技師。千葉大学病院検査部副技師長を経て現職。臨床化学者、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師、医用質量分析認定士。

千葉大学病院検査部で約30年間臨床検査技師として勤務してまいりました。長い現場経験を生かし、臨床検査の面白さ、大切さを教育できるように頑張ってまいりたいと思います。本学科の教員は大学病院、海外活動、学会・職能団体の理事など豊富な業務経験と研究経験があり、これらを生かした教育を、最先端の設備の元で実践しています。今後も病気の早期発見や正確な診断に不可欠な臨床検査技師の養成に尽力する所存です。

保健医療学部 理学療法学科長

柊 幸伸

国際医療福祉大学大学院で修士・博士（保健医療学）を取得。2007年に国際医療福祉大学小田原保健医療学部理学療法学科准教授、保健医療学部教授、了徳寺大学教授、福岡国際医療福祉大学教授。

前任は、福岡市に2019年に開校された福岡国際医療福祉大学医療学部理学療法学科で、開校1年前の準備室より着任し、1期生が卒業するまでの5年間勤務しました。大田原キャンパスには過去に3年ほど勤務した経験があり、懐かしい職場に戻ってきた感覚です。今までの学科長が築いてきた理学療法学科の歴史を大切にし、新たな理学療法学科を築いていきたいと考えています。

保健医療学部 放射線・情報科学科長

杉山 直樹

東北大学 工学部 原子核工学科 卒　国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学卒 保健医療学博士、（株）東芝（現：キヤノンメディカルシステムズ（株））に入社。以降PACSをはじめとする画像システム開発、営業、SE業務、開発部長、事業部長、総合企画センター業務に従事。

前職のキヤノンメディカルシステムズでは経営企画部として社会の動きを確認しておりました。その中で、IT技術の進展が、AI等の人工知能の利用だけでなく、ゲノム解析や腸内細菌の解析といった形でも医療へ影響を与えようとしていることに驚きを覚えています。また、医療機器に関する法律や医療法もサイバーセキュリティの強化が進んでいます。こうした変化にしっかりついていけるように教育してまいります。

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 医療マネジメント学科長

石川 ベンジャミン 光一

東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士（保健学）。国立がん研究センター臨床経済研究室長などを経て、2018年4月に本学に着任。大規模医療データに基づく診療プロセスの分析、地域医療提供体制の実態把握などの研究に従事。日本医療・病院管理学会評議員。東京都地域医療構想調整部会、横浜市保健医療協議会委員。

患者様により良い医療を提供するには、医師や看護師などの医療専門職が活躍する環境を整える必要があります。医療機関を適切に運営し、将来に向けて導くためには、病院の医療と経営の状況をデータに基づいて把握し、医療スタッフとともに問題の解決をめざす事務系スタッフの力が欠かせません。「縁の下の力持ち」として社会の役に立つ人材を育成し、卒業生が社会に出てからも頼れる学び舎をめざして取り組んでまいります。

小田原保健医療学部 作業療法学科長

北島 栄二

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修了。博士（医学）。厚生労働省福祉用具・住宅改修指導官。長崎大学産学官連携戦略本部准教授。福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科長。

2006年4月に開設したこの学科の伝統を受け継ぎつつ、さらなる発展をめざしていく所存です。近年は地域包括ケアシステム実現のため、医療と介護のシームレスな連携が求められ、作業療法士は「その人らしい生き方の実現」へ関わる専門性がますます必要とされます。本学科では、人の体と心を医学的に理解し、その人に合った生き方を考え抜く人材の育成をめざします。他キャンパスとの連携が欠かせませんので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

福岡保健医療学部 医学検査学科長

佐藤 謙一

静岡大学工学部卒。静岡大学修士（工学）、千葉大学博士（医学）。日立製作所、千葉大学医学部附属病院検査部勤務。一級遺伝子分析科学認定士、認定臨床染色体遺伝子検査師。日本遺伝子診療学会理事・評議員、日本染色体遺伝子検査学会理事、福岡県臨床衛生検査技師会理事、その他6学会所属。

医学検査学科は2013年4月に開設され10年が経ちました。千葉大学医学部附属病院検査部にて主に遺伝子検査業務に携わり、学科開設時に着任しました。近年急速に進んでいるプレシジョン・メディシンの実施において、ゲノム情報を含む臨床検査結果は重要なファクターとなります。本学科では、最先端検査の知識・技術を修得し国際的に活躍できる人材の養成をめざします。10年の節目を機に重責を担うことになり、身を引き締めて職務を果たす所存です。

小田原保健医療学部 理学療法学科長

久保 晃

社会医学技術学院卒、青山学院大学卒、筑波大学大学院修了(教育学修士)、博士(医学、埼玉医大)、国際医療福祉大学大学院理学療法学分野長。

通算22年間、自然豊かな大田原キャンパスでかけがえのない教員生活を送りました。グローバルな視野を持ち、自主的・自律的に行動できる人材育成がモットーです。情熱を持って運動や動作を観察・解析し、身体機能向上の可能性を追求できる理学療法士の養成に全力を注ぎます。また、スポーツ支援や介護予防事業への参加も展開してまいります。受験生および関連する方々に選ばれ、良き人材を輩出し続ける学部および大学院であるように尽力してまいります。

福岡保健医療学部 看護学科長

三橋 睦子

福岡教育大学大学院教育学研究科、久留米大学大学院医学科博士課程修了（医学博士）。久留米大学医学部看護学科教授、同大学医学研究科看護学専攻感染症看護分野統括責任者、認定看護師教育センター長、医学部看護学科学科長を歴任。日本災害看護学会理事、日本看護研究学会理事、日本看護学教育学会理事。ひらめき・ときめきサイエンス推進賞、日本災害看護学会功労表彰。

前任の久留米大学では看護学科の学科長や認定看護師教育センターセンター長を歴任し、感染症看護の専門看護師養成コース等のリカレント教育にかかわってまいりました。この度、大川キャンパスに新設された福岡保健医療学部看護学科の学科長を拝命いたしました。4年間で充実した学習成果につながる看護学教育を目指し、医療福祉の総合大学ならではの連携を強みに、次代の看護師の育成に取り組んでまいります。

国際医療協力センター長
大学院医学研究科公衆衛生学専攻 国際医療学分野責任者/
医療福祉経営専攻 医療福祉国際協力分野責任者

山本 尚子

札幌医科大学卒業。岡山大学大学院医学研究科修了。博士（医学）。米国ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生大学院修了。（旧）厚生省に入省。国連日本政府代表部参事官、防衛省衛生官、厚生労働省疾病対策課長、北海道厚生局長、厚労省総括審議官（国際保健担当）等を務めたのち、2017年から5年間 WHO事務局長補。帰国後、現職。

これまで厚生労働省、防衛省、県や市町村で保健医療福祉に関する制度づくりや公衆衛生プログラムの実践を行うとともに、国連代表部や世界保健機関（WHO）で国際保健に携わってきました。コロナ禍を経験し、グローバルな視点で考え協働する重要性を強く認識しています。本学の建学の精神である「国際社会で活躍する人材の育成」と「国際社会への貢献」を具現化するために学内学外の方々とともに尽力してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学クリニック院長
健康管理センター長

前田 眞治

北里大学医学部卒、同大学医学部大学院修了、医学博士。同大学医学部神経内科講師、医療衛生学部リハビリテーション学科助教授、東病院リハビリテーション科長を経て国際医療福祉大学リハビリテーション科指導医・専門医、脳卒中指導医・専門医、リウマチ専門医、内科認定医。日本温泉科学会会長、日本温泉協会副会長。

これまで40年近く理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視機能療法士・看護師などの育成をしてまいりました。クリニックは大田原キャンパスの学生の実習や教育に欠かせない施設であり、その管理ができることは、大変光栄で、やりがいを感じています。学生・職員の健康を支え、サポートハウス那須や風花園入所者の健康管理、周辺の地域住民の地域医療など行っていく所存ですので、よろしくお願いいたします。

赤坂山王メディカルセンター 院長

青木 大輔

慶應義塾大学医学部卒、医学博士。慶應義塾大学医学部産婦人科学教授、同病院婦人科診療部長、日本婦人科腫瘍学会理事長、日本臨床細胞学会理事長、Asian Society of Gynecologic Oncology 理事長を経て、現在、日本産科婦人科学会副理事長。産婦人科専門医、婦人科腫瘍専門医、細胞診専門医、遺伝性腫瘍専門医、女性ヘルスケア専門医。

これまで慶應義塾大学医学部産婦人科学教授を18年間務め、婦人科悪性腫瘍を中心とした婦人科疾患全般の臨床、研究、教育、予防、さらに行政との連携に勤しんでまいりました。女性の健康増進への取り組みを通じて、真の福祉の実現には、幅広い角度からの複合的アプローチが不可欠であることを痛感しております。赤坂山王メディカルセンターでは婦人科診療の充実だけでなく、エビデンスに基づいて全人的対応を提供するという理念を追求したいと考えています。

医学教育統括センター長

矢野 晴美

岡山大学医学部卒業。博士（医学）。Mount Sinai Beth Israel内科レジデント、University of Texas-Houston感染症科フェロー、Southern Illinois Universityアシスタントプロフェッサー、自治医科大学准教授、筑波大学教授を経て本学医学部教授。東京2020大会組織委員会理事。欧州医学教育学会生涯教育委員会幹事。日本医学教育学会理事。2023年4月より米国内科学会日本支部長。

このたび、英語で医学教育を実施する本学医学部初期6年間を立ち上げ、その土台を築かれた赤津晴子先生を引き継がせていただくこととなりました。まさに“Standing on the shoulders of giants” のごとく、この土台の上に、最新の教育科学に基づいた教育をこれまで以上に展開し発展することを目標としております。世界最高レベルの医療者教育の環境を実現し提供することができればと願い、尽力いたします。引き続き、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

介護福祉特別専攻科長

松山 美紀

淑徳大学大学院修了。介護福祉士・介護支援専門員。複数の介護事業所で指導者・管理者として従事しながら、介護福祉養成施設で介護福祉教育に携わる。2023年1月に国際医療福祉大学入職。

2023年4月に新設された国際医療福祉大学成田キャンパスの介護福祉特別専攻科開設準備のため、1月に入職しました。このたび、介護福祉特別専攻科長を拝命しました。介護福祉専門職のリーダーとなる人材、医療・福祉の他の領域にも精通した介護福祉人材の養成をめざします。若い専攻科ですが、専攻科教員で協力し、心身の状況に応じた介護を実践するエキスパートを輩出できるよう、尽力してまいります。

キャンパスイベントのご案内

2023年6月から8月に各キャンパスで予定のイベント日程をお知らせします。
詳細はホームページでご確認ください。

国際医療福祉大学ホームページ
https://www.iuhw.ac.jp/oc/

大田原キャンパス		成田キャンパス		東京赤坂キャンパス	小田原キャンパス	大川キャンパス	大学院
キャンパス開催	外部説明会	医学部以外	医学部				
6/11（日） オープンキャンパス	**6/25（日）** 薬学部説明会 仙台会場	**6/4（日）** オープンキャンパス	**6/25（日）** 医学部説明会 ※会場：東京赤坂キャンパス	**6/11（日）** オープンキャンパス	**6/3（土）** オープンキャンパス	**7/23（日）** オープンキャンパス	**7/9（日）** オンライン オープンキャンパス
7/30（日） オープンキャンパス	**7/2（日）** 全学部説明会 水戸会場	**6/17（土）** 薬学部説明会	**7/1（土）** 留学生・帰国生対象 オープンキャンパス	**7/16（日）** オープンキャンパス	**6/24（土）** オンライン オープンキャンパス	**8/5（土）** オープンキャンパス	
8/11（金・祝） オープンキャンパス	**7/8（土）** 全学部説明会 郡山会場	**6/24（土）** 介護福祉特別専攻科説明会	**7/9（日）** 医学部説明会 ※会場：福岡キャンパス（大学院）	**7/30（日）** オンライン オープンキャンパス	**7/30（日）** オープンキャンパス	**8/20（日）** オープンキャンパス	
8/19（土） オープンキャンパス		**8/6（日）** オープンキャンパス	**8/6（日）** オープンキャンパス	**8/6（日）** オープンキャンパス	**8/6（日）** オープンキャンパス		
		8/19（土） オープンキャンパス	**8/19（土）** オープンキャンパス	**8/20（日）** オープンキャンパス	**8/20（日）** オープンキャンパス		

外 須美夫前副学長 退任記念講話

2018年4月から5年にわたり本学の九州地区担当副学長を務められた外前副学長が、2023年3月をもって退任され、3月29日、大川キャンパスで「SNS世代の医療人に求められるもの」をテーマに「退任記念講話」を行った。会場には学生、教職員、高木病院の医師など300人ほどが集まり、副学長としての最後の講義に聞き入った。

外前副学長は、胸に抱き続けてきた信条として灰谷健次郎（児童文学作家）の文章にある「生命に対する畏敬だけが教育を可能にする」を挙げ、「インターネット社会で育ったZ世代は、摩擦の起きない人とだけつながるSNSやメタバースに夢中である」「しかし、SNSは他者への想像力や共感力を低下させやすい。まさにチーム医療の危機である」とし、「今こそ、人の痛みまで感じる心を育む教育が必要。それは、本学が掲げる『互いを認め合う』教育でもある」と続けた。

●武田弘志福岡薬学部長よりお礼の言葉

●学生代表、薬学科3年（当時、現4年）の今林奏子さんより花束贈呈

そして、学生たちに、「協働的な創造をする、能動的に参加する、そうやってチームがめざす目標の達成に向かって連携するのが多職種連携。この先、どんなにAIが台頭してもまねをできないのが、コミュニケーションであり、ホスピタリティ、人間力。効率や技術はAIに譲っても、感性、愛情、命への責任、共感、そして希望は人間の領域だ。だから、私たち医療福祉職はこれからもポストAIの担い手だという自信を持ってください。そして、この人と一緒に働きたい、この人のもとなら頑張れると思われる人間になってください。生命への畏敬のために、SNSで愛を共有し、世の中を改革してほしい」と結び、万雷の拍手を浴びた。

杉原素子教授 ご退職記念講演会・祝賀会の開催

大田原キャンパス初代作業療法学科長の杉原素子教授のご退職を記念して、3月30日に講演会と祝賀会が開催された。杉原教授は、本学の初代学科長時代に第4代日本作業療法士協会会長として、日本の作業療法の発展に寄与され、令和3年秋（11月3日）の叙勲では旭日小綬章を受章された。本学では、副学長、大田原、小田原、成田の3キャンパスにおいて保健医療学部長などの要職を歴任。また、大学関連施設の社会福祉法人邦友会新宿けやき園の施設長をお引き受けになるなど、学問的な立場から医療福祉の実践者として第一線で活躍された。

講演会では鈴木康裕学長からご挨拶をいただき、祝賀会では三浦総一郎大学院長に乾杯の音頭をお取りいただいた。年度末にもかかわらず、120名を超える教え子（作業療法士）が東京赤坂キャンパス大講堂に集い、杉原教授のご退職を祝った。時間を惜しむように同窓生が杉原教授を囲み、最後は参加者全員で東京赤坂キャンパス正面玄関階段に花道を作り、大きな拍手とともにお見送りした。

大学院・臨床心理学専攻 亀口憲治特任教授の最終講義

3月24日、東京赤坂キャンパスで本学大学院・臨床心理学専攻の亀口憲治特任教授の最終講義が行われた。亀口特任教授は、日本における家族療法の第一人者として知られ、国際医療福祉大学大学院では2011年より12年間お務めになった。

講義では「臨床心理学60年の歩み 家族療法と出会うまで」と題して、心理学に関心を抱いた高校生以来、研究の道へと進んだ足跡を辿った。

特に九州大学大学院博士課程を修了後、フルブライト研究員として渡米した際に現地で多くの出会いがあったこと、そして家族療法の研究に邁進したことが貴重な経験となったことなど当時の写真も交えて紹介された。

当日は大学院生に加えて、亀口特任教授に指導を受けた修了生、本学・心理学科の卒業生も数多く来校して聴講する姿が見られた。最後は、大学院生や卒業生から、感謝の言葉とともに花束やプレゼントが手渡された。

令和４年度 学位記授与式

大田原キャンパス

大田原キャンパスの学位記授与式が3月10日に行われた。コロナ禍でかなわなかった保護者の出席が4年ぶりに復活した。

この日、学位記を授与された学部生は759人、大学院修了生は34人。鈴木康裕学長は式辞で「今回のコロナ禍のように将来、つらく厳しい選択を迫られる場面に遭遇しても、これからも『自ら考え』、『自ら行動でき』、そして『生涯学ぶ』ことを常に忘れずに、夢を広く大きく持ちながら試練を乗り越えていただきたい」と述べた。

三浦総一郎大学院長は北里柴三郎の「世の中は決して行き詰まることはない」との言葉を紹介し、「この先、上手くいかないような場合にも必ず気をとりなおして、その若さと情熱で我が道を切り開いていただきたい」と呼びかけた。

来賓の相馬憲一大田原市長、末永洋之栃木県副知事から祝辞をいただいた後、学部生総代の吉村綾香さん（言語聴覚学科）、大学院修了生総代の佐藤稜さん（博士課程・医療福祉学研究科）が謝辞を述べた。吉村さんは「専門職としての自覚を持ち、対象の方々に寄り添った医療・福祉を実践することで、共に生きる社会の実現に貢献できるよう精進していきます」と誓った。佐藤さんは「学んだ知識や培った能力を生かしていくと同時に関わるすべての方々への感謝を忘れず社会に貢献できるように精進します」と力を込めた。（総務課　村山ゆみ）

●4年ぶりに保護者が参加した学位記授与式

大川キャンパス

福岡保健医療学部の学位記授与式は3月7日、倉重良一大川市長らを招いて挙行され、外須美夫副学長から学部生210人に、三浦総一郎大学院長から大学院生14人に、それぞれ学位記が授与された。

外副学長は式辞で、これから働く医療の場で培ってほしい3つの力として「自分が行う行為の意味、危険性を見極める注意力」「共に生きる社会の実現に必要な共感力」「しっかりと大地に根を張り成長するための忍耐力」を挙げ、「逃げてはいけません。あきらめてはいけません。これらの力を培って、人生を築き、大いに活躍してください」とエールを送った。

卒業生の坂口稀愛さんが「困難を乗り越えた思い出を自信に変え、新社会人として大きな一歩を踏み出したい」、修了生の蓮本礼桂さんが「臨床、教育、研究活動に日々努力したい」と謝辞を述べた。（広報　帆足リエ）

●校歌斉唱をする卒業生一同

●卒業生に祝辞を送る倉重良一大川市長

※役職は当時。

小田原キャンパス

小田原保健医療学部・大学院の学位記授与式が3月9日、守屋輝彦小田原市長、国立病院機構箱根病院の今井富裕院長の出席のもと、行われた。

この日、学位記を授与されたのは学部生194人（看護学科82人、理学療法学科79人、作業療法学科33人）大学院修了生13人（博士課程3人、修士課程13人）。

学部生総代として理学療法学科の大和泰葉さんに鈴木康裕学長から学位記が授与され、三浦総一郎大学院長からは博士課程総代の細川真登さんに学位記が授与された。各学科の学長賞発表の後、鈴木康裕学長、三浦総一郎大学院長の式辞に続き、来賓の守屋小田原市長、今井富裕箱根病院長より祝辞をいただいた。

最後に作業療法学科髙橋藍さんの「卒業生謝辞」、宮山涼子さんの「修了生謝辞」で閉式となった。髙橋さんは、「今後は大学で学んだことを礎に、たゆまぬ自己研鑽を続け、保健、医療、福祉のさらなる発展に貢献すべく邁進していく所存です」と活躍を誓った。（総務課　村坂美希）

●学位記を受け取る大和さん

●祝辞を述べる守屋小田原市長

●謝辞を述べる髙橋さん

東京赤坂キャンパス

春の息吹が感じられる穏やかな日となった3月9日、東京赤坂キャンパスで令和4年度学位記授与式が学部・大学院合同で執り行われた。

学位記を授与されたのは、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部生124名（心理学科58名、医療マネジメント学科66名）と、大学院修了生203名（博士課程 29名・修士課程174名）。鈴木康裕学長より、学部生を代表して卒業生総代の青木久美さんに、三浦総一郎大学院長より、大学院生を代表して大学院博士課程修了生総代の藤田烈さんに、それぞれ学位記が手渡された。

続いて学長賞、大学院長賞が発表された後、鈴木学長、三浦大学院長、高木邦格理事長の式辞が述べられ、来賓の医療法人財団順和会山王病院藤井知行病院長より祝辞をいただいた。

最後に、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科の大石知佳さんが「恵まれた環境で学業に専念できたと実感している」、医学研究科医学専攻博士課程の藤田烈さんが「コロナ禍という状況のなかで、研究にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げる」と謝辞を述べ、閉式となった。（事務課　野原大彰）

●学位記授与式の様子

●謝辞を述べる大石知佳さん

成田キャンパスから初の医学部卒業生

●3月12日に成田病院で開催された学位記授与式

医学部第1期生ら　晴れの旅立ち

3月12日、キャンパス周辺に桜が咲き始める暖かな日差しの中、医学部、成田看護学部、成田保健医療学部、臨床工学特別専攻科および大学院の学位記授与式が国際医療福祉大学成田病院で挙行された。

医学部は本学では初となる1期生の卒業となる。医学部125人のほか、成田看護学部103人、成田保健医療学部252人、臨床工学特別専攻科5人、大学院31人の合計516人に学位記が授与された。

卒業生にとっては臨床実習の地である成田病院で晴れの日を迎えたことは誇らしく、笑顔あふれる式となった。

「生涯学ぶことを忘れずに」鈴木学長 「海外でも活躍できる医療人に」三浦大学院長

鈴木康裕学長は式辞で、「つらく厳しい選択を迫られる場面があっても、自ら考え行動し、そして生涯学ぶことを忘れずに、夢を大きく持ちながら試練を乗り越えてください」と、これから医療人としての日々をスタートさせる卒業生たちを鼓舞する言葉を贈った。

また、高木邦格理事長、三浦総一郎大学院長はそれぞれ卒業生に対し「医療人としての誇りを持ち、海外でも活躍できる国際色豊かな医療人になってほしい」と激励した。

式典には熊谷俊人千葉県知事、小泉一成成田市長、西條正明文部科学省大臣官房審議官をはじめ、多くの来賓の方々が参列し、卒業生たちにあたたかいはなむけの言葉を贈った。

「ベトナムと日本の懸け橋になることをめざしたい」卒業生代表

卒業生・修了生謝辞ではそれぞれの学部学科を代表して関根希和子さん（医学部）、ダン タン フイさん（ベトナム出身＝奨学生）、東海林航太さん（成田保健医療学部）、門脇誠一さん（大学院）が在学中の学びへの感謝、卒業、修了後の抱負を述べた。

特に優れた成績を収めたダン タン フイさんには理事長賞が授与され、フイさんは謝辞のことばとして、母国ベトナムの医療水準の向上と、「ベトナムと国際医療福祉大学、そして日本との懸け橋になることをめざし、さらに研鑽を積みたい」と、今後も医療人として日々精進していくことを力強く語った。（広報　城貴弘）

●祝辞を述べる熊谷俊人千葉県知事

●理事長賞を授与されるダン タン フイさん

理事長賞　卒業生総代・卒業生代表

理事長賞　成田キャンパス

医学部　医学科

DANG THANH HUY（ダン タン フイ）

この6年間は多くの豊かな経験を授けてくれました。奨学金留学生として来日し、先生方に一から日本語をご指導いただいたことを今でも鮮明に覚えています。

入学後、英語と日本語で医学に励み、友人と先生方とともに、医学部1期生としてより良い医学部作りをめざした日々は、深く心に残っています。そして、コロナ禍にも関わらず、先生方と患者さんのお陰で、実り多い国内臨床実習と海外臨床実習を経験することができました。

充実した6年間は、奨学金制度を創設してくださった高木邦格理事長、熱心にご指導くださった先生方、職員の皆様、友人や家族のおかげです。心より御礼申し上げますとともに、6年間の学びを生かし、母国と大学の架け橋として、医療水準向上のため精進してまいります。

卒業生総代　大田原キャンパス

保健医療学部　言語聴覚学科

吉村 綾香

4年前の春、桜が咲き誇る中迎えた入学式が鮮やかに思い出されます。大学生活を振り返りますと何にも代えがたい貴重な学びとたくさんの人々との出会いがありました。多様な考え方や価値観に触れる中で一人の人間として大きく成長することができました。

卒業後は学んだことを十二分に生かすとともに、専門職としての自覚を持ち、多職種との連携を図り、互いに高め合うことができるよう努力し、対象の方々に寄り添った医療・福祉を実践することで、共に生きる社会の実現に貢献できますよう精進してまいります。

卒業生代表　成田キャンパス

成田保健医療学部　医学検査学科

東海林 航太

大学生活を振り返り、臨床検査技師としての専門的な知識や技能、患者さんとの関わり方、検査室内での機器の取り扱い、業務の流れといったことを深く学ぶことができ、4年間で自身の確かな成長を感じています。

実習や授業を通して支えてくださった教職員の方々、友人に、心から感謝申し上げます。

卒業後は本学の大学院へ進学するとともに、国際医療福祉大学成田病院へ就職をする社会人大学院生として新たな一歩を踏み出します。本学並びに医療界の発展に寄与できるよう、臨床検査技師としての技能を磨いていきたいと思います。

卒業生総代　小田原キャンパス

小田原保健医療学部　理学療法学科

大和 泰葉

大学生活を振り返ると楽しかったことよりも大変だったことの方が多い4年間でした。試験に追われる日々、新型コロナウイルスにより対面で実施できない授業や実習などさまざまな壁がありましたが、これらを乗り越え無事に卒業できたのは、教職員や実習先の指導者、家族、友人の支えがあったからです。

4月からは理学療法士として病院で働きます。さまざまな困難にぶつかることもあると思いますが、4年間の大学生活での学びを生かし、一層努力していきたいと思います。

卒業生代表　成田キャンパス

医学部　医学科

関根 希和子

振り返りますと、大学生活に期待を寄せた入学式のことを昨日のことのように思い出します。医学部1期生として入学することに不安もありましたが、それ以上に、新しい道を開いていけることへの期待感がありました。

大学生活の途中には、新型コロナウイルス感染症の拡大、世界情勢の不安定化のなか、国内外の病院での実習の機会をいただけたことに感謝しております。

今後は、患者様の価値観や人生観に寄り添う医療を追求すると共に、国内外の医療を担っていけるよう、日々精進していく決意です。

卒業生総代　東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部
医療マネジメント学科

青木 久実

赤坂キャンパス2期生目として卒業を迎えることができました。大学4年間を振り返りますと、瞬く間に毎日が過ぎ去ったように思います。丁寧にご指導くださった先生方、共に学び合った友人との出会いがあり、本当に恵まれた環境で学業に専念することができたと実感しております。

これまでの学生生活をさまざまな形で支えてくださったすべての皆さま、いつも私を支え、尊重し続けてくれた家族に心より感謝いたします。

卒業生総代　大川キャンパス

福岡保健医療学部　言語聴覚学科

柴田 佳奈

先生方や友人たちと出会えたことが思い出です。勉強や実習で大変でしたが、熱心にご指導してくださった先生方や、共に過ごしてくれた友人たちがいてくれたおかげで4年間頑張ることができました。心から感謝しています。

卒業後は、言語聴覚士が専門とする全ての領域に携わりたいと考えています。また、患者様に寄り添い、信頼される言語聴覚士になれるよう、これからも常に努力していきたいと考えます。

学長賞

大田原キャンパス

卒業生総代

保健医療学部
言語聴覚学科
吉村 綾香

卒業生総代
（12ページに掲載）

保健医療学部
看護学科
山下 明香莉

保健医療学部
理学療法学科
安藤 史弥

成田キャンパス

卒業生代表

医学部
医学科
関根 希和子

卒業生代表
（12ページに掲載）

成田看護学部
看護学科
水越 萌佳

成田保健医療学部
理学療法学科
高橋 幹人

大田原キャンパス

保健医療学部
作業療法学科
佐藤 瑠音

保健医療学部
視機能療法学科
杉田 拓真

保健医療学部
放射線・情報科学科
鈴木 明日花

成田キャンパス

成田保健医療学部
作業療法学科
岡本 莉奈

成田保健医療学部
言語聴覚学科
岡部 まりん

卒業生代表

成田
保健医療学部
医学検査学科
東海林 航太

卒業生代表
（12ページに掲載）

大田原キャンパス

薬学部
薬学科
熊田 知明

医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科
栗原 寿里愛

小田原キャンパス

卒業生総代

小田原
保健医療学部
理学療法学科
大和 泰葉

卒業生総代
（12ページに掲載）

小田原保健医療学部
看護学科
白石 睦

小田原保健医療学部
作業療法学科
髙橋 藍

大川キャンパス

卒業生総代

福岡
保健医療学部
言語聴覚学科
柴田 佳奈

卒業生総代
（12ページに掲載）

福岡保健医療学部
理学療法学科
コウ イシン

福岡保健医療学部
作業療法学科
井 夏海

福岡保健医療学部
医学検査学科
坂口 稀愛

東京赤坂キャンパス

卒業生総代

赤坂心理・医療福祉
マネジメント学部
医療マネジメント学科
青木 久実

卒業生総代
（12ページに掲載）

赤坂心理・医療福祉
マネジメント学部
心理学科
大石 知佳

大学院長賞

医療福祉学研究科　博士課程
保健医療学専攻　理学療法学分野

佐藤 稜

この度はこのような栄えある賞をいただき大変光栄に思います。ご指導いただきました諸先生方や臨床の現場にかかわる皆様のご協力によって、博士課程での研究をやり遂げる成果につながったと感じております。心より感謝申し上げます。社会人大学院生として過ごした日々は臨床での知識を深めると同時に、臨床で生じる疑問を解決すべく研究活動を行って参りました。本学の先生方には研究計画から統計解析、考察など研究について細部にわたりご指導いただき、また学会発表や論文投稿など大変貴重な経験をさせていただきました。

今後も携わる方々への感謝の気持ちを忘れずに、本学で学んだ知識や培った能力を生かし、社会に貢献できるよう精進してまいります。

医学研究科　博士課程
医学専攻　社会医学研究分野

藤田 烈

この度は大学院長賞という大変栄誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございます。賞をいただいた論文は、COVID-19患者対応を行う医療者の感染リスクを評価し、安全な業務手順を提案するものです。厚生労働省の要請を受けて国立感染症研究所と共同で実施した研究で、コロナ禍中の成田病院で調査を行いました。国際医療福祉大学の一員として困難に対峙する医療者を支え、安全を担保するエビデンスの創出に貢献できたことは、私の大きな誇りです。

貴重な機会と丁寧なご指導を賜りました山崎力教授、松本哲哉教授に、心より感謝申し上げます。また、大変な状況の中で研究にご協力いただきました成田病院感染制御部、呼吸器内科病棟の皆様に、厚く御礼申し上げます。

医学研究科　修士課程
公衆衛生学専攻　国際医療学分野

TRUONG THI THUY DUNG（チュオン ティ トゥイ ズン）

この度は栄えある賞をいただき、ありがとうございます。論文作成にあたりご指導いただきました加藤康幸教授、Le Tran Ngoan教授、Ariuntuul Garidkhuu 講師、ご助言をいただきました池田俊也教授、Myat Thandar 教授、鈴木知子講師に感謝いたします。また、同級生からのアドバイスは心強いものでした。公衆衛生学の学位を取得する機会を与えてくださった高木邦格理事長、鈴木康裕学長、三浦総一郎大学院長に心から感謝いたします。

私にとって研究は容易なものではありませんでしたが、大学院で身につけた知識は将来にわたり貴重なものとなりました。今後もこれらの知識を生かし、自己研鑽に努めたいと思います。最後に、私の両親、姉、夫のサポートと理解に心から感謝しています。

医療福祉学研究科　修士課程
保健医療学専攻　作業療法学分野
作業活動支援学領域

遠藤 佳蓮

この度は、大学院長賞にご選出いただき身に余る光栄と存じます。ご指導いただきました杉原素子教授、平野大輔准教授、作業療法学分野の先生方、一緒に学びを深めた仲間達、論文執筆の際ご助言をいただきました三浦香織先生、研究にご協力いただいたNPO法人の皆様、ならびに私生活で支えてくれた家族と友人に心から感謝申し上げます。

日々の臨床と学業にがむしゃらに向き合う中で、生涯にわたって取り組んでいきたいテーマを見つけることができ、さらに人とのご縁にも恵まれ、貴重な2年間となりました。今後も子どもに関わる社会課題に取り組み、市民ひとりひとりの主体的な行動のきっかけ作りができるよう精進してまいります。

大学院総代

医学研究科　博士課程
医学専攻

門脇 誠一

耳鼻科の臨床医として、手術の技術を磨くことに一生懸命だった私は、5年程前に大学院入学を考えるようになりました。きっかけは、尊敬する先生たちがみな、一定期間基礎研究に従事した経験をもち、臨床上の疑問に対するアプローチのレベルがとても深いことに気がついたからです。そんな折、4年前に岡本秀彦教授と出会い、国際医療福祉大学大学院に入学することを決意しました。

入学してからの4年間、岡本教授の指導により、最高の環境で学ぶことができました。特に参照論文を読み込む経験を通じて、たくさんの研究者の努力の上に今の医学が成り立っていることを、改めて感じることができました。

この4年間で得られたリサーチマインドをさらに磨き、より深いレベルの臨床と研究を続けていきます。

2022年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

【看護学分野】
- **葛山 加也子**　医療型障害児入所施設の看護師としての心理的成長プロセス ―超重症心身障害児への「抱っこ」への思いと実践から―
- **松谷 弘子**　小児専門病院における看護師の離職の影響要因
- **三輪 聖恵**　新卒看護師の組織社会化尺度の開発
- **梁原 裕恵**　血液透析業務における看護師の困難感評価尺度の開発
- **金子 順子**　保存期慢性腎臓病患者の病気認知モデルの構築
- **高山 直樹**　重症心身障害児(者)施設における呼吸器感染症予防策の確立に関する研究 ―呼吸器感染予防に関する戦略「PRIME Strategy(仮称)」の検証―
- **渡部 瑞穂**　行政保健師の施策化能力形成過程モデルの構築 ～市町保健師を対象とした検討～

【助産学分野】
- **小倉 由紀子**　看護女子大学生の「性の健康」をめざす教育プログラム作成へ向けたエビデンスの集積

【理学療法学分野】
- **秋山 和也**　術後の身体活動量が下肢整形外科術後高齢患者のボトムアップ注意に与える影響
- **荒井 沙織**　Effects of Different Visual Presentation Methods on Movement Procedure Learning（邦題：動作手順学習における視覚提示方法の違いによる影響）
- **朱 悦彤**　Body Fat Percentage and Normal-Weight Obesity in the Chinese Population: Development of a Simple Evaluation Indicator Using Anthropometric Measurements.（邦題：体脂肪率と正常体重肥満：人体測定法による隠れ肥満に対する簡易評価指標の開発）
- **原 卓也**　アキレス腱に対する新生血管の動態観察 ～15秒指圧・下腿三頭筋の伸張性トレーニング効果の症例集積研究～
- **細川 真登**　地域在住高齢者と健常若年者における下腿筋の質が歩行動揺性に及ぼす影響
- **佐藤 稜**　要介護高齢者における頸部周囲径はサルコペニアを予測する可能性がある
- **栗田 麻結**　地域在住高齢者のフレイルとソーシャルキャピタルの関係について ～新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて～

【作業療法学分野】
- **木村 修豪**　地域在住高齢者におけるGo/Nogo課題時の反応時間変動係数・事象関連電位と認知機能の関係
- **溝口 貴之**　高齢者のDownward Gaze中の姿勢動揺と脊柱彎曲角との関連性の検討
- **石井 清志**　自立生活センターの機能と役割 ～自立生活センターが地域生活支援資源となるために～

【福祉支援工学分野】
- **鎌倉 宗史**　起立しやすい便器・便座周辺設定の検討 ―脊柱後弯変形を呈した高齢者を対象として―
- **河井 宏幸**　理学療法士・作業療法士養成課程における大学教員の業務と困難感に関する研究
- **伴野 麻矢**　高次脳機能障害者の就労に向けた医療機関における評価と就労支援機関への連携の課題に関する研究

【放射線・情報科学分野】
- **成田 充穂**　ヨードを用いたCT検査におけるノイズ及びコントラストの不均一性と体型依存性に基づいた撮影条件設定の最適化
- **西川 祝子**　被写体条件と散乱X線を考慮した乳房X線撮影の最適な撮影線質の決定に関する研究
- **松本 健希**　放射線治療における人エルビーを使用したリアルタイム線量測定システムの開発

【言語聴覚分野】
- **大森 智裕**　失語症における呼称の障害特性：反応時間と関連要因からの検討
- **温 簫**　近赤外線センサーを用いた嚥下運動測定装置による喉頭運動分析 ～近赤外線の透過と反射の測定とその特徴～
- **川邊 圭太**　日本語話者の発語失行におけるプロソディーの特性：発話時間とアクセントの音響学的検討
- **Jason Hollowell**　Development of a digitized Early Hearing Detection and Intervention – Information System (EHDI-IS) in Japan – 日本における難聴早期発見・介入デジタル情報管理システム(EHDI-IS)の開発
- **笹目 友香**　聴覚障害児の皮肉理解について
- **山口 優実**　耳内嚥下音と喉頭挙上の測定による嚥下動態の観察
- **佐藤 友貴**　人工内耳装用児の競合音声下の語音聴取能に話者の声の違いと発話特徴が与える影響

【医療福祉教育・管理分野】
- **海老原 賢人**　理学療法士の自己調整学習方略尺度の開発 ～信頼性と妥当性の検証～
- **黒川 喬介**　認知症患者に対する作業療法学生の態度形成 ―顕在的認知とBPSDへの困難感による因果モデル―
- **鈴木 幸宏**　実地指導者が必要とする新人教育環境・能力に関する探索的研究 ―eポートフォリオによる新人教育管理の提案―
- **千葉 哲也**　東京における新型コロナウイルス感染症流行下のリハビリテーション専門職のメンタルヘルスに関する調査
- **西郡 亨**　回復期リハビリテーション病棟に従事するセラピストにおけるメンタルヘルスとパフォーマンスに影響を与える諸要因の関係について ―キャリア発達段階別モデルによる分析―
- **柊木 明子**　鍼灸師の批判的思考態度に関する研究 ―鍼灸師のための批判的思考態度を評価する尺度の信頼性と妥当性の検証―
- **石野 麻衣子**　理学療法士におけるメンタリング行動指標の開発とその信頼性・妥当性の検証

【臨床検査学分野】
- **上野 民生**　JANISデータを用いた抗菌薬治療効果予測システムの構築
- **片山 博徳**　Construction of an antibody panel for malignant coelomic fluid with anti-heparitinase antibodies. – Usefulness of cell transfer method for cytological samples –
- **高田 勇吉**　循環マイクロRNA測定によるⅡ型糖尿病の診断・病期分類
- **板橋 匠美**　Notchシグナルの調節因子Tm2d3の生体における機能の解明
- **中野 恵一**　日常検査における非特異反応の原因究明と対応法に関する研究

【医療福祉経営学分野】
- **艾 国**　医師の増減から見た中国の地域別の医療発展に関する考察 ―2010年から2019年にかけての中国を356に分けた地域別医師数推移―
- **王 麗香**　吉林省における地域別整備状況から見た高齢者医療介護提供に関連した政策提言 ―中国社会の持続可能性を高める介護保険の導入―
- **孟 華川**　遠隔画像診断事業の国際展開の可能性と政策課題 ―日本から中国への展開を中心に―
- **森次 幸男**　メディカルアフェアーズの医療貢献について

【診療情報管理・分析学分野】
- **高橋 幸恵**　ICHIを用いた前腕骨折患者を対象にした1入院当たり包括評価の開発に関する研究
- **三重 和憲**　胎児発育不全（FGR）合併妊娠における早産をアウトカムとした周産期予後不良因子に関する研究

【医療福祉学分野】
- **高石 麗理湖**　医療ソーシャルワーカーの実践過程を支える経過記録法のあり方 ―生活支援記録法（F-SOAIP）の導入によるアクションリサーチ―

【先進的ケア・ネットワーク開発研究分野】
- **森井 琢磨**　地域包括ケアシステムの構築に向けた地方公共団体の実態と課題

【医療福祉ジャーナリズム分野】
- **八木 亜紀子**　テキストマイニングによるソーシャルワーク記録の考察 ～医療ソーシャルワーカーを対象にして～

【臨床心理学分野】
- **平岡 さゆり**　家族性大腸腺腫症とともに生きる患者とその家族の疾患受容プロセスと支援に関する質的研究
- **山下 夏美**　精神的健康度と音楽の嗜好性との関連 ―年代と性別に注目して―

【医療・生命薬学専攻（分野なし）】
- **湯山 円晴**　インシリコを活用した分子設計によるエストロゲン受容体アンタゴニストの創薬及び抗コリン活性予測法の構築
- **清水 美希**　不妊治療に影響を及ぼす因子の探索

【基礎医学研究分野】
- **門脇 誠一**　Auditory steady state responses elicited by silent gaps embedded within a broadband noise（邦題：無音挿入刺激音による聴性定常反応の測定）
- **石井 貴弥**　A novel categorization of the muscular branches of the tibial nerve within the popliteal fossa（邦題：ヒト膝窩部脛骨神経筋枝の新しい分類の提案）

【社会医学研究分野】
- **田中 豪人**　To what extent did the government investment in health reduce households' catastrophic out-of-pocket health expenditure in the Millennium Development Goals era? A panel data analysis of 71 low- and middle-income countries（邦題：破滅的な自己負担保健医療支出を被った家計の頻度と保健医療支出の関係に関する71の低・中所得国を対象としたパネルデータ分析）
- **土屋 明大**　Associations between Depressive Symptoms, Work Environment, and Lifestyle in <40-year-old Male Orthopedic Physicians in Japan（邦題：40歳未満の日本人男性整形外科勤務医を対象としたうつ症状と労働環境・生活習慣との関連）
- **福島 彩子**　Smartphone-based mobile applications for adverse drug reactions reporting: global status and country experience（邦題：薬物有害反応報告のためのスマートフォンモバイルアプリケーション: グローバルでの現況と国における経験）
- **吉井 史歩**　Factors associated with participation in an ongoing national catch-up campaign against rubella: a cross-sectional internet survey among 1680 adult men in Japan（邦題：風しんの第5期定期接種への参加に関連する要因：成人男性を対象としたインターネットの横断的調査）
- **藤田 烈**　Potential risk of SARS-CoV-2 infection among people handling linens used by COVID-19 patients before and after washing（邦題：COVID-19患者が使用したリネン類の取り扱いに関する潜在感染リスク）
- **五十嵐 真里**　Exploring the Competencies of Japanese Expert Nurse Practitioners: A Thematic Analysis（邦題：日本の臨床経験豊富なナースプラクティショナーから探索したコンピテンシー：テーマ別分析）
- **吉永 陽子**　Gastric cancer mortality rates by occupation and industry among male and female workers aged 25-64 years in Japan（邦題：日本の25歳から64歳の男女労働者における産業・職業別の胃がんによる死亡率）

【臨床医学研究分野】
- **正木 紀行**　Chloroquine Plus Rapamycin Arrest Tumor Growth in a Patient-Derived Orthotopic Xenograft (PDOX) Mouse Model of Dedifferentiated Liposarcoma（邦題：クロロキンとラパマイシン併用による脱分化型脂肪肉腫の患者由来同所異種移植マウスモデルにおける腫瘍抑制効果）
- **安谷屋 仁**　Influence of antidepressant use on 123 I-MIBG heart and lung uptakes in the diagnosis of Lewy body disease（邦題: 抗うつ薬がMIBG 心交感神経シンチグラフィー検査に与える影響）
- **定免 渉**　Iron chelator deferasirox inhibits NF-κB activity in hepatoma cells and changes sorafenib-induced programmed cell deaths（邦題：鉄キレート剤デフェラシロクスは肝がん細胞株におけるNF-κBの活動性を阻害しソラフェニブが誘導する制御された細胞死を変化させる）
- **鄭 飛**　Changes of cortico-cortical neural connections associated with motor functional recovery after stroke（邦題：脳卒中後の運動機能回復に伴う大脳皮質-皮質間神経連絡の変化について）
- **山田 健太**　Usefulness of Global Longitudinal Strain-Guided Management in Preventing Human Epidermal Growth Factor Receptor 2 (HER2) Inhibitor-Induced Myocardial Damage（邦題：抗ヒト上皮成長因子受容体2ヒト化モノクローナル抗体投与による心機能障害を予防するためのGlobal Longitudinal Strainを用いたフォローアップの有用性の検討）
- **北島 聡**　A Retrospective Analysis of Risk Factors for Mortality during Hemodialysis at a General Hospital that Treats Comprehensive Diseases（邦題：包括的に複合疾患を診る地域総合病院における血液維持透析患者の死亡危険因子要因に関する後ろ向き解析研究）
- **田村 祐大**　Longitudinal Strain and Troponin I Elevation in Patients Undergoing Immune Checkpoint Inhibitor Therapy（邦題：免疫チェックポイント阻害薬投与患者における心筋障害早期発見のためのLongitudinal strain の意義に関する研究）
- **熊埜御堂 浩**　Development of an allergic rhinitis diagnosis application using the total tear IgE detection kit for examining nasal fluid: comparison and combination with the conventional nasal smear examination for eosinophils（邦題：涙液総IgE検査キットを用いた鼻汁検体からの総IgE半定量法開発の試み:鼻汁好酸球検査との比較と併用）

Institution Information 施設インフォメーション

●国際医療福祉大学成田病院　●国際医療福祉大学病院　●国際医療福祉大学三田病院
●国際医療福祉大学熱海病院　●国際医療福祉大学市川病院　●国際医療福祉大学塩谷病院　●山王病院／山王メディカルセンター

国際医療福祉大学成田病院

4月1日に入社式を挙行、総勢 1,441人のスタッフと迎えた開院４年目

2020年３月に開院した当院は４年目を迎えた。開院以来、延べ21,000人を超える新型コロナウイルス陽性者の入院を受け入れ、印旛医療圏で最も多くの病床を確保してきたことに対して千葉県から謝辞をいただいた。新型コロナウイルス関連以外でも、昨年度は約4,800件の救急搬送を受け入れ、手術室も13室に増室、千葉県の災害拠点病院、肝がんにおけるがん診療連携協力病院に指定された。今後642床のフルオープンに向け準備を進めていく。

４月１日に入社式を開催した。今年は、医師96人、看護師119人をはじめ、メディカルスタッフ、事務など計286人が入職、これにより当院のスタッフは総勢1,441人となった。入社式では、新たに着任した吉野一郎・新病院長がご挨拶された。

「さまざまなバックグラウンドを持つ方々が本日集いました。これから心を１つにして病める人のために全力を尽くすという医療者の本分を基本に歩みを進めていきましょう。４年目を迎えた当院は新しいステージに入り、今年度から本学の医学部１期生を含む35人の臨床研修医を迎え、教育機関としての役割が大きくなりますが、ぜひそれぞれの目標に向かって励んでください。新卒の方はもとよりすべての新入職者にとっては、今年はとても大切な人生の節目の年でしょう。大学附属病院として皆様のやる気に応えられるような職場でありたいと思います。

この３年間はコロナという大きな重荷を背負った船出で、開院を前倒しして対応にあたった宮崎前病院長をはじめとするスタッフの皆様にとっては大変なご苦労だったと思います。当院はまだ若い病院で、皆様と同じように大きな可能性を秘めた病院です。これから本来の病院機能を発揮できるよう、また地域をはじめ国内外からご信頼いただける高度急性期病院となるよう一緒にがんばっていきましょう。」

吉野病院長のもと、当院は地域医療への貢献とともに、ミッションのひとつであるインバウンドの本格的な受け入れを進め、国際的な病院をめざしスタッフ一丸となって尽力していく。（広報室）

●吉野一郎病院長

●4月1日開催の入社式

国際医療福祉大学病院

那須塩原市高齢福祉課主催「お食い締め」の講演会をサポート

愛知学院大学心身科学部健康科学科准教授の牧野日和氏を講師に迎え、2月4日、「人生最終段階の食支援 お食い締め」講演会を開催した。本講演会はオンライン形式で開催され、那須塩原市主催ではあるが、当院はそのパブリックビューの会場として講堂を提供した。

「人生の最期に何を食べようか」「誰と、どう食べようか」そんな思いを巡らせ、去りゆく人と残された人たちが命を学び、きずなを深める「お食い締め」。看取り期にかけての摂食嚥下機能訓練や死生観を下地にした「人生最終段階の食・家族・支援」が大きなテーマとなっている。

当院は特別養護老人ホーム栃の実荘、介護医療院／介護老人保健施設マロニエ苑などの福祉施設が隣接し、医療や福祉の専門職種が互いに連携しながら地域を支えている。今回の講演会のサポートは、その理念を具体的に地域に示すものとなった。

（総務課　中澤彩乃）

●講演会の様子

国際医療福祉大学三田病院

多職種でICLS（Immediate Cardiac Life Support）講習会を実施

3月8日、当院の三田ホールにて「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」の習得を目標に、ICLS講習会を行った。今回は、1年目研修医、看護師、診療放射線技師の計6人の多職種メンバーが参加した。

さまざまなシナリオでシミュレーション実習を繰り返し行い、各自がインストラクターから個別にアドバイスを受けた。受講者からは、「普段は心電図波形をみることがなく、最初は右も左もわからない状態だったが、次の動きが予測できるようになった」「今まではどのタイミングで何をすればよいのかわからなかった。今後はもう少し自信を持って動けるようになりたい」などの感想が寄せられた。

インストラクターからは、「今日のベーシックな知識の上に経験を重ねていくことで、できることが増えていく。ぜひ、繰り返し学習していただきたい」とエールが送られた。

（総務課　青島千恵）

●ICLS講習会の様子

国際医療福祉大学熱海病院

「静岡県東部地域の病院見学ツアー」に協力

静岡県東部地域の病院見学ツアーが3月8日に開催された。これは静岡県の医師確保事業の一環として、医学生が県東部にある3つの病院を見学するものである。

当院では、最初に高邦会グループの歴史について、次に山田佳彦副院長が当院の概要と臨床研修プログラムについて説明を行った。その後、1年目の臨床研修医が院内を案内し、学生からの質問に対して自身の経験を交えて答えた。

見学中は、眼前に広がる相模湾と初島を望む景色に多くの学生から感嘆の声が上がった。また一方で、「どのような分野で臨床経験を積むことができるのか」といった具体的な質問があがり、当院に興味を持った学生の熱心な姿勢が感じられた。

最後に、池田佳史病院長から未来の医師に向けて激励の言葉が贈られ、静岡県で医師を志す学生に熱海病院の魅力を知ってもらう貴重な機会となった。

（総務課　小野貴光）

●医学生と研修医による懇談の様子

国際医療福祉大学塩谷病院

災害初動訓練を実施

当院は、栃木県より「地域災害拠点病院」ならびに「災害派遣医療チーム（DMAT）指定病院」に指定されている。災害が発生した際に、緊急かつ的確な医療行為を遂行できるよう、塩谷広域行政組合消防本部にも協力をいただき、2月18日、本年度第1回目となる災害初動訓練を実施した。

今回は、茨城県沖を震源とする震度6強の大規模地震発生を想定。搬送される傷病者にトリアージを行い適切な処置室に誘導するなど、職員同士が迅速に連携し、緊張感を持って訓練に取り組んだ。各部署で作成している災害マニュアルどおりにはいかない部分もあったが、災害時に備え、一人ひとりがどのように行動し対応すべきか、改めて見直すよい機会となった。

（総務・人事課　後藤文栄）

●災害対策本部

●トリアージエリア

●患者搬送

国際医療福祉大学市川病院

市川学園でスポーツ医学相談を定期開催

当院の大谷俊郎病院長は、2022年7月より市川学園にて、同校の中学生・高校生を対象にスポーツ医学相談を実施している。年３回、学期ごとに開催して、3月24日が3回目。1回に10人前後の相談を受けている。

相談内容は、「中学に入学してスポーツ活動を再開したが、ひざや腰に痛みが出て困っている」といった障害予防についてや、「もっと速く走れるようになるにはどうしたらよいか」といったトレーニングのことなど、多岐にわたる。その後、相談のみに留まらずに当院に患者として来院した例、腰椎分離症の疑いのある生徒が当院で精密検査を行った例、別の病院で手術をすすめられたが不安があるということで当院を受診した例などがある。

このような活動は、当院への認識を新たにしていただく機会となる。県内有数の進学校である同校。数年後、「スポーツ医学相談を受けたのが志望した動機」という医学部生が出てくるかもしれない。

（総務課　浦井邦之／高田聡）

●医学相談中の大谷病院長

山王病院／山王メディカルセンター

東京ボイスセンター長 渡邊教授による市民公開講座を開催

3月11日、国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス講堂にて、市民公開講座「マスク時代の健康維持 ーいい声でいい人生をー」を開催した。本講座では、マスクとディスタンスがもたらす「見えない不調」、その予防法と対応策について、渡邊雄介医学部教授（山王メディカルセンター副院長・東京ボイスセンター長）が講演した。

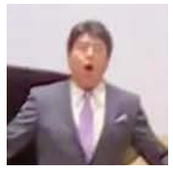
はじめに渡邊教授より、人類の進化の歴史、声帯の仕組み・働き、声の不調について解説があったのち、田代名帆子言語聴覚士による「のどトレーニング」の実践、さらに、4月に東京ボイスセンターに着任した本多信明医師によるテノール独唱が披露された。

約50人の参加者からは、「日々のトレーニングを実践したい」「生のオペラが聴けて感動した」「声筋(こえきん)の大切さがわかった」などの感想があり、大変好評だった。

（山王病院　総務課　山本悦子）

●講演中の渡邊教授

●トレーニングについて説明する田代言語聴覚士


●独唱を披露する本多医師

海外研修
海外保健福祉事情 3年ぶりに再開

新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた総合教育科目「海外保健福祉事情」の海外研修が、約3年ぶりに再開した。コロナ禍前は毎年夏・冬季に10日～14日間、17か国で研修を実施し、約900人の学生が渡航していたが、新型コロナウイルスが流行し始めた2020年2月出発の2019年度冬季後半から中止となり、2020年度から2022年度夏季まで代替措置としてオンラインによる講義を行ってきた。日本をはじめ各国の水際対策が緩和されたことなどから、2022年度冬季研修からの海外渡航再開を決定し、大田原、小田原、成田、東京赤坂の各キャンパスと福岡国際医療福祉大学から計77人の学生が3か国4研修機関でそれぞれの国の医療・福祉について学んだ。

今号では2～3月に実施された冬季海外研修4グループのレポートを紹介する。（大田原キャンパス 国際室　藤原志保）

オーストラリア　グリフィス大学

再開第1弾となった研修

成田保健医療学部 医学検査学科
准教授　片山 博徳

新型コロナウイルス感染症の影響で中断されていた海外保健福祉事情海外研修が3年ぶりに再開された。その第一弾としてオーストラリアのグリフィス大学へ10日間の日程で3キャンパス8学科から22人の2年生が参加した。

オーストラリアはパンデミック以前の生活に戻っていて、その中で学生全員が高い自己管理能力を持ち、積極的に学んでいたことが強く印象に残っている。

彼らが本学の輝かしい未来を創ってくれることを確信した研修だった。

日豪の医療提供体制の違いを学ぶ

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 医療マネジメント学科
2年　久保田 哲郎

2月2日から11日までの期間、オーストラリアのゴールドコーストにあるグリフィス大学で研修を行った。

多様な学科の学生によって構成された22人の参加者は、医療用語や看護学の講義を受講したほか、隣接する病院を見学し、日本との医療提供体制の違いについて学んだ。また、ホストファミリーとの会話や生活における日常会話などによって、語学能力の向上を図った。短期間であったが、実りある充実した研修を行うことができた。

●本研修参加者と現地の教員。グリフィス大学にて

オーストラリア　TAFEゴールドコースト

笑顔に満ちた学生たち

成田保健医療学部 理学療法学科
准教授　河野 健一

3キャンパス6学科26人の学生と2人の教員で研修へ参加した。TAFEゴールドコーストでは質の高い英語研修を受けることができ、他国・他大学の留学生とも幅広い交流の機会を持てた。また、看護学教員の講義や現地病院の見学を通してオーストラリアの医療制度を深く学べた。

ホスピタリティー溢れるTAFEスタッフやホストファミリーのおかげで、学生・教員とも濃密な11日間を過ごせたことに深く感謝したい。

人の温かさに触れた11日間

成田保健医療学部 放射線・情報科学科
2年　風呂田 快晴

TAFEゴールドコーストで過ごした日々はかけがえのない思い出になった。クラスでは多国籍の方々と積極的に会話し、最終日には意気投合したクラスメートが名残惜しく感じるまでに成長した。また、スーパーの店員との何気ない会話や道路の標識など、目や耳にするもの1つひとつが新鮮で刺激的な日々を送った。

今回の研修で、オープンマインドな姿勢で交流することの大切さを学修した。この経験を医療に携わる際にも生かしたい。

●TAFEにて修了証を掲げて記念撮影

ベトナム　ホーチミン医科薬科大学・チョーライ病院

日本の医療との違いや共通点を実感

成田保健医療学部 作業療法学科
講師　石井 清志

2月24日から3月5日の10日間、学生14人（大田原1人、小田原2人、成田11人）、教員2人の総勢16人でベトナム最大の都市、ホーチミンで海外研修を行った。研修ではチョーライ病院、ホーチミン市医科薬科大学（UMP HCMC）での実習、国際医療福祉大学ドック健診センター（HECI）の視察を通じ参加学生は各専門領域における日本式医療との違いや共通点を実感していたようだ。

また、現地学生との交流の時間「TOMODACHI HOUR」では、UMP HCMCとIUHWの学生が互いの伝統文化を披露し、交流を図った。

向上した主体性とコミュニケーション能力

成田保健医療学部 言語聴覚学科
2年　森 天声

3年ぶりに実施されることになった海外保健福祉事情に参加することができて、本当にいい経験ができた。現地での病院実習期間は、専門職ごとにベトナムの医療に直に触れ、現地の方々とのコミュニケーションも積極的に取ることができた。設備的な面や福祉制度の面での日本の医療とベトナムの医療の相違点なども細かく学ぶことができ、今後の学修に役立てようと思った。

また、現地の大学生とは文化的な交流も深められたが、それだけでなく言語の壁を越えた友好関係を築くことができた。最後に、今回の研修では、自分たちで学びを深める場面が多く、主体性と英語力、コミュニケーション能力の向上を図ることができたと思う。

●チョーライ病院での研修に参加した学生たち

シンガポール　ナンヤンポリテクニック

シミュレーションを用いた質の高い看護教育

成田保健医療学部 理学療法学科
助教　鵜澤 寛伸

15人の学生を引率し、シンガポール研修に参加した。ナンヤンポリテクニック（NYP）の協力のもと、医療制度全般とシミュレーションを用いた看護教育を学んだ。特に、シミュレーション教育は設備の充実さだけではなく、教員・学生ともに授業の事前準備を徹底している様子を見学し、双方の意識の高さに驚いた。

「シンガポールの資源は人材」と政府が銘打ち、教育現場に落とし込んでいる様子を目の当たりにし、見習うべき姿勢だと感じた。

●患者（マネキン）の説明をするNYPの先生と聴講する学生

実践に近い形で学べる環境に魅了

保健医療学部 理学療法学科
2年　松下 凛子

私達が訪れたナンヤンポリテクニック（NYP）の看護科では、IT技術を取り入れ、患者型のマネキン人形を用いて授業を行っていた。実践に近い形で学ぶことができる環境に魅了された。

ホストファミリーは短い期間でさまざまな体験をさせてくれた。朝の屋台に溢れる人々、多国籍の方が交わる姿、シンガポールと他国の国境、日本では見ることのできない景色が広がっていた。言語や文化の壁は大きかったが、拙い英語でも意思疎通を図れたときの喜びは一生忘れることはないだろう。

●NYPでの実習後。キャンパスを横断して、楽しく充実した研修を行うことができた

今回の研修日程

オーストラリア	グリフィス大学	2023年2月2日～11日
	TAFEゴールドコースト	2023年2月22日～3月4日
ベトナム	チョーライ病院・ホーチミン市医科薬科大学附属病院	2023年2月24日～3月5日
シンガポール	ナンヤンポリテクニック	2023年2月28日～3月6日

※2023年度夏季研修からはコロナ禍前と同様の規模での実施を予定している。

塩谷看護専門学校 卒業式・入学式

卒業式

塩谷看護専門学校は3月3日、本校講堂で卒業式を執り行った。

国際医療福祉大学の鈴木康裕学長の式辞をいただき、47人の新たな門出を祝った。式では、須田康文学校長が卒業生代表・荒木優女乃さんに卒業証書を手渡し、「社会に出て、聞く力をもつこと、感謝すること、知識を知恵に変えること、この3つを忘れないで前に進んでください」と、はなむけの言葉を贈った。その後、卒業生の代表として金田桃香さんが「自分の看護観を深め、より看護への決意を固めることができたのは、実習で多くを教えてくださった患者様、実習を受入れてくださった病院関係者の皆様、導いてくださった先生方、同じ思いを共有し合った仲間、いつもそばで支えてくれる家族がいたからです。本当にありがとうございました」と答辞を述べた。卒業生は気持ちを新たに、看護の道の第一歩を踏み出した。卒業生の更なる飛躍と今後の活躍を教職員一同期待している。

（事務部　田島鮎子）

●答辞を述べる金田桃香さん

●卒業証書授与を受ける荒木優女乃さん

入学式

塩谷看護専門学校は4月7日、本校講堂で入学式を執り行い、新たに36人が入学した。

式では、須田康文学校長が「皆さん一人ひとりが、在校生、教職員、そしてご家族を含めたチームの一員です。3年間の学業を遂行し、一緒に卒業する、そして全員で国家試験に合格するというのが私たちの共通の目標です。目標に向かってチーム一丸となって、力強く歩んでいきましょう」と激励の言葉を贈った。

続いて、在校生の代表として、3年生の上野奏さんが「歓迎の言葉」として「日々積み重ねる学習や患者様との出会い、そこで得た経験は看護学生としてだけでなく一人の人間として大きく成長させてくれると思います。これからの学校生活や実習先での出会いを大切にし、自分の理想とする看護師をめざして共に頑張りましょう」と述べた。これを受けて、新入生代表の村上凛さんが「誓いのことば」として「私たち新入生一同、先輩方が築いてきた本校の伝統を守り、地域社会に貢献できる看護師をめざし、日々努力することを誓います」と述べた。

学生一人ひとりに寄り添い、すべての学生にとってより良い成長の一年になるよう、教職員一同、全力で取り組んでいきたい。

（事務部　田島鮎子）

●誓いのことばを述べる村上凛さん

令和5年度 学部・大学院・特別専攻科 新入生概要

学部新入生概要

キャンパス	学部	学科	入学者数
大田原	保健医療学部	看護学科	118
		理学療法学科	102
		作業療法学科	82
		言語聴覚学科	83
		視機能療法学科	51
		放射線・情報科学科	115
		学部合計	551
	医療福祉学部	医療福祉・マネジメント学科	134
	薬学部	薬学科	189
	大田原キャンパス合計		874
成　田	医学部	医学科	142
	成田看護学部	看護学科	102
	成田保健医療学部	理学療法学科	86
		作業療法学科	43
		言語聴覚学科	43
		放射線・情報科学科	54
		医学検査学科	81
		学部合計	307
	成田キャンパス合計		551
東京赤坂	赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	心理学科	61
		医療マネジメント学科	60
	東京赤坂キャンパス合計		121
小田原	小田原保健医療学部	看護学科	82
		理学療法学科	89
		作業療法学科	46
	小田原キャンパス合計		217
大　川	福岡保健医療学部	看護学科	62
		理学療法学科	56
		作業療法学科	28
		医学検査学科	83
		学部合計	229
	福岡薬学部	薬学科	123
	大川キャンパス合計		352
全学部合計			2115

大学院新入生概要

課程	研究科	専攻	入学者数
修士課程	医学研究科	公衆衛生学専攻	15
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	219
		医療福祉経営専攻	58
		臨床心理学専攻	35
	薬科学研究科	生命薬科学専攻	0
	修士課程合計		327
博士課程	医学研究科	医学専攻	20
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	76
	薬学研究科	医療・生命薬学専攻	4
	博士課程合計		100
大学院合計			427

特別専攻科新入生概要

臨床工学特別専攻科	合計　9
介護福祉特別専攻科	合計　22

Topics トピックス

IUHWグループにおける注目の出来事や話題を紹介します。

小山西高等学校と高大連携協定調印式を実施

1月12日、大田原キャンパスにおいて栃木県立小山西高等学校様と高大連携協定調印式を実施した。今回の締結で大田原キャンパスの高大連携協定校は8校目となった。

当日は、小山西高等学校 佐藤弘道校長先生と本学 鈴木康裕学長が「連携協力に関する覚書」にそれぞれ署名を取り交わした。

協定締結後、佐藤校長より「本校は毎年80名程度の生徒が医療系の学校へ進学している。高大連携を基盤に進路選択のバックアップをしていきたい」とご挨拶をいただき、鈴木学長も「本学は医療福祉の総合大学として国際的な分野も踏まえて教育、医療に携わっている。このたび両校が連携協力関係を結べたことで、今後相互の交流を通して教育の質を高めていきたい」と挨拶した。

同校は、「総合的な探究の時間」において「キャリアクション・プロジェクト」と称したグループ研究や個人研究による進路実現に向けた探究活動に取り組んでいる。今回本学と高大連携協定を締結したことで、生徒の経験値をさらに向上させるプログラムを提供するだけではなく、教員間の交流など高校・大学が一体となった教育の取り組み強化を図っていきたい。

●「連携協力に関する覚書」を掲げる
小山西高校佐藤校長と本学鈴木学長

「留学生日本語スピーチコンテスト」2年ぶりの開催

大川キャンパス留学生サポートセンター（センター長/岸拓弥 福岡薬学部教授）では、2 月25日（土）、グループが運営する大川シネマホールで「第2回留学生日本語スピーチコンテスト」を開催した。参加したのは、留学生別科に在籍するミャンマーからの留学生9人。同キャンパスボランティア部や有志からなる日本人学生サポーター17人とともに9チームに分かれ、2か月におよぶ準備を重ね、日本語学習の成果を披露した。

見事、副学長賞に輝いたのは、タン ヨー ジン トゥンさんと作業療法学科1年（当時、現2年）柳瀬友花さん、医学検査学科1年（当時、現2年）林侑希乃さんのチーム。『言葉の力』をテーマに、ヨーさんが「母親や大川市で出会ったお年寄りの一言が、留学に対する不安を消し去り、前向きな気持ちをもたらした」と語り、「あなたの言葉は周囲の人を変える力になります」と結ぶと、会場からは大きな拍手がわき起こった。コンテストに先立っては、大川市の倉重良一市長からの応援メッセージも公開され、審査員である内藤妙子教育長からは、ユーモアたっぷりに大川ライフを語ったス ウェイ ウェイ ニンさんチームに「教育長賞」が贈られた。

また、福岡国際医療福祉大学の高木邦康常務理事は「留学生はもちろん、参加した日本人学生にもよい経験となったイベントだった。勇気と夢を持って大川市に来られた留学生のみなさんが日本で活躍できるよう、国際医療福祉大学はこれからもその夢をサポートしていきます」と挨拶した。外須美夫前副学長からは「SNSなど多様な伝達手段があるなかで、本当に伝えたいのは、記号の向こうにある人の思い。言葉にはそれを伝える力があると分からせてくれた、素晴らしいスピーチコンテストでした」という総評をいただいた。

●副学長賞のヨーさん

●国際交流委員長賞

本学薬学部学生が「第19回学生＆企業研究発表会」で企業賞受賞

大学コンソーシアムとちぎ・学生＆企業研究発表会実行委員会が主催する「第19回学生＆企業研究発表会」の最優秀賞選考会および表彰式が2022年12月3日に行われ、「ものづくり・医学・医療・福祉分野」で参加した大田原キャンパス薬学部の学生6人のグループが企業賞の1つである「タスク賞」を受賞した。企業賞は、産学官金の各分野の審査員による採点で上位となった研究発表のうち、各協賛企業からその企業の事業内容と近しい分野における優れた研究に贈られる。「タスク賞」は日本の生検針・特殊針メーカーである株式会社タスクによる企業賞で、受賞した本学薬学科5年の鎌田祭さん、田中萌瑛さん、大井綾乃さん、熊谷さくらさん、新村陽香さん、村田千夏さんは「低酸素負荷マウスの情動的行動特性と脳機能変化」というテーマで発表を行った。研究発表の最後に「今後、本研究を産学官で共有することで、県民の呼吸器及び精神疾患への意識向上につなげていきたい。また、県内製薬企業等との共同でさらなる研究の発展を目指し、医療界全体に情報提供を続けていきたい」と結んだ。

2022年度 国家資格試験結果

2022年度の国家試験結果が発表され、本学では初となる「医師」合格者が誕生。合格率99.2%で全国2位（新卒者・既卒者含む）となった。また、「介護福祉士」で6年連続100%、「保健師」は小田原保健医療学部で9年連続100%を達成したほか、全学部全学科で全国合格率を大きく上回る結果となった。

資　格	キャンパス	合格率	
医師	全　国	91.6%	
	成　田	99.2%	合格率：全国2位
薬剤師	全　国	69.0%	
	大田原	92.8%	合格率：全国4位（受験者数100人以上の大学）
看護師	全　国	90.8%	
	大田原	97.5%	
	成　田	98.1%	
	小田原	100%	2年連続
保健師	全　国	93.7%	
	大田原	98.3%	
	成　田	100%	4年連続
	小田原	100%	9年連続
理学療法士	全　国	87.4%	
	大田原	100%	合格者数：全国3位（97人）
	成　田	100%	合格者数：全国6位（82人）
	小田原	98.7%	合格者数：全国8位（78人）
	大　川	100%	合格者数：全国8位（78人）
作業療法士	全　国	83.8%	
	大田原	100%	合格者数：全国1位（72人）
	成　田	97.9%	合格者数：全国4位（46人）
	小田原	100%	4年連続
	大　川	100%	

資　格	キャンパス	合格率	
言語聴覚士	全　国	67.4%	
	大田原	98.4%	合格者数：全国1位（61人）
	成　田	100%	合格者数：全国5位（38人）
	小田原	100%	合格者数：全国6位（35人）
視能訓練士	全　国	89.3%	
	大田原	98.0%	合格率：全国1位
診療放射線技師	全　国	87.0%	
	大田原	100%	合格者数：全国3位（95人）
臨床検査技師	全　国	77.6%	
	成　田	85.9%	合格者数：全国7位（73人）
	大　川	92.3%	
社会福祉士	全　国	44.2%	
	大田原	84.8%	合格者数：全国9位（67人）
精神保健福祉士	全　国	71.1%	
	大田原	82.1%	合格者数：全国5位（23人）
介護福祉士	全　国	75.6%	
	大田原	100%	6年連続
臨床工学技士	全　国	85.4%	
	成　田	100%	2年連続

International University of Health and Welfare IUHW CONTENTS vol.133 May 2023

2～5 特集 医学部1期生卒業記念祝賀会／第2回IUHW国際医学教育シンポジウム開催

6～8 令和5年度 入学式 高木邦格理事長式辞／鈴木康裕学長式辞／大田原キャンパス／小田原キャンパス／成田キャンパス／大川キャンパス／東京赤坂キャンパス

9 新大学院長 就任のごあいさつ 矢冨 裕大学院長／退任のごあいさつ 三浦総一郎前大学院長

10～14 新任のごあいさつ／キャンパスイベントのご案内

15 退任記念講話 外須美夫前副学長／杉原素子教授／亀口憲治特任教授

16～21 令和4年度 学位記授与式 成田キャンパスから初の医学部卒業生
大田原キャンパス／大川キャンパス／小田原キャンパス／東京赤坂キャンパス／理事長賞、卒業生総代・卒業生代表／学長賞／大学院長賞／大学院総代／2022年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

22～23 施設インフォメーション 成田病院／国際医療福祉大学病院／三田病院／熱海病院／塩谷病院／市川病院／山王病院・山王メディカルセンター

24～25 海外研修 海外保健福祉事情 3年ぶりに再開

26 塩谷看護専門学校 卒業式・入学式／令和5年度 新入生概要

27 トピックス 小山西高等学校と高大連携協定調印式を実施／「留学生日本語スピーチコンテスト」2年ぶりの開催／薬学部生が「第19回学生&企業研究発表会」で企業賞受賞

28 2022年度 国家資格試験結果

広報誌 IUHW 133　2023年5月30日　発行：学校法人 国際医療福祉大学　ホームページ https://www.iuhw.ac.jp/

〔大田原キャンパス〕栃木県大田原市北金丸2600-1 Tel.0287-24-3000
〔成田キャンパス〕千葉県成田市公津の杜4-3 Tel.0476-20-7701
〔東京赤坂キャンパス〕東京都港区赤坂4-1-26 Tel.03-5574-3900
〔小田原キャンパス〕神奈川県小田原市城山1-2-25（本校舎）Tel.0465-21-6500
〔大川キャンパス〕福岡県大川市榎津137-1 Tel.0944-89-2000

編集：広報部　デザイン：（株）日経ピーアール